

聖徒の道

2

VOL. 12 No. 2

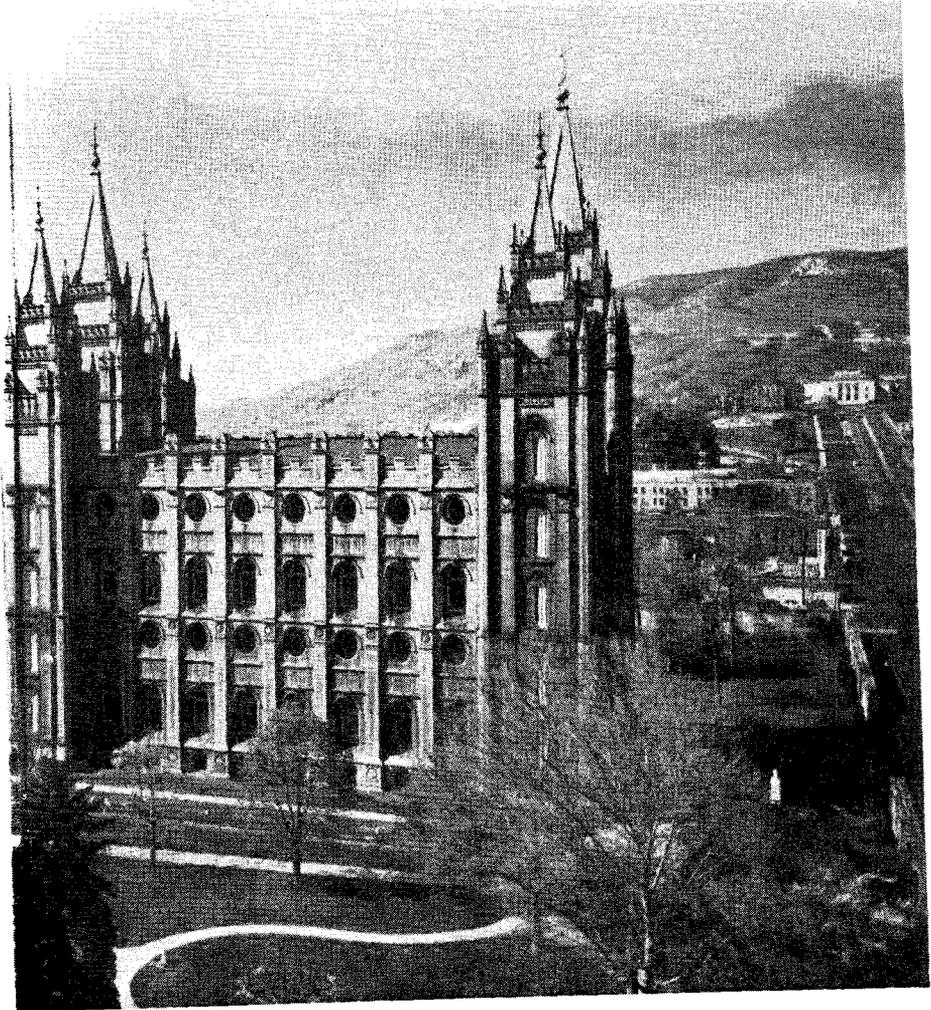


あなたも宣教師!!

回復された神の教会を
より雄弁に紹介するために

モルモン教の繪入説明

モルモン物語



予言者のことば

家庭と家族	2
伝道部長会メッセージ	田中健治 7
新年のごあいさつ(その2)	10
ホーム・ティーチング	(特集) 13
九州地方部発足	18
系 図	イスラエル人の散乱と集合 21
証 詞	専任宣教師 24
	地方部宣教師 27
第3回ハワイ神殿訪問者へ	36
扶助協会	
家庭訪問教師用メッセージ	37
MI Aリーダー	
第一回ガールズ・プログラム受賞者発表	41
MI A月間レポート	44
ユース・コンファレンスについて	45
東中央地方部大会	48

も く じ 聖 徒 の 道 2 月 号

表紙の説明 九州地方部(福岡、北九州、熊本、長崎)の第一回地方部大会の写真

家庭と家族

大管長 デビッド・O・マッケイ



家庭と家族

「このころよい満足がいつも存在している永続的な家庭は国の力である。自分の利益を思わない、愛情のある交じわりの中に生活をしている満足した個人個人が、幸福な家庭を形づくるように、満足のある平和な家庭は進歩する平和な町村をつくり、このような町村がいくつもあつまって平和な進歩する国をつくる。われわれの近代文明が永つづきするかしないかは、われわれの家庭が秩序だったよく管理されている家庭であるかないかによる。

このような家庭は、金が多くあるから物が豊富にあるからといってできるものではない。本当に、最もつつましい家庭にこそかえって最も結束力のある要素と最も高尚な情操がたびたび発見されるものである。

わが教会にあるどの秩序立った家庭においても例外なく、幼年時代の美しい自由な精神がその国を尊びその神を礼拝するように導びかれ、そしてどの人でも例外なく、家庭が永遠の交わりと永続する喜びのもとであることを知っている。

家族生活の重要性

わたたくしは、家族関係の神聖なことと尊ぶべきことと、永続することについて、神がその民に教えを垂れたもうたことをたたえたてまつる。

家庭はこの地球上で天国に最も近いものであります

家庭こそ最も純粋なそして最も深い愛のあるところであつて、また信用と信頼と理解とが世界中どこよりも多くなければならぬところであります。日本と沖繩のすばらしい聖徒たちは、その家庭を「モルモンの家庭」に見ならつてつくり

たいと思つています。「しかし、モルモンの家庭と家族とはどのようなものですか」とその聖徒たちはいつも質問いたします。

そこで私たちは、デビッド・O・マッケイ大管長がお書きになつた「モルモンの家庭と家族」の概略をみなさんと一しよに味わつてみたいと思つています。……

われわれは、結婚というものが人間の知っている、または人間のひき受けることのできる最も神聖な義務であることを若い人々に教えようではないか。また、家族は神が定めたもうた最初の制度であって、人間の中に定められたことを若い人々に教えよ。もしもあらゆる夫婦が例外なく、この義務が神の定めたもうたものであることを了解するならば、離婚にまでなる争いによって破れる家庭の数はもっと少なくなるであろう。

わたくしたちの政府、もしくは共和政体が安全で永つづきするかしないかは、その基礎である個々の家庭が安全で永つづきするかしないかによる。この中にわたしたちは、この民がこの偉大な国を、ある点で、救う者になるかも知れない一つのことをちらりと見るのである。家庭はイエス・キリストの福音の教えも、自由の原則をいつまでもこすことも、共に子供たちに与えるはずの場所である。もしも家庭が破壊されるときには、子供たちは罪の道へそれ始めるそのとき、法律はその手を伸して彼らをつれ戻し、世の中の役に立つことの原則とまことの行状に関する原則とを教える努力をしなくてはならない。しかるに、家庭が破壊されたあかつきには州の力(または国の力)は何という無力なことであろうか！

家庭は愛によって永つづきする。もしもあなたが小さな子供たちの愛を得ていないと感ずるならば、それを得るように

くふうせよ。たとえ家畜の世話を怠らうとも、良い収穫をあげなくとも、あなたの子供たちの愛を保つようにくふうせよ。

忠実な家庭を永つづきさせるもう一つの要素である。あなたが後になって、子供たちが神権に対して示してほしいと思う忠実(という美德)は、まず家庭の中であらわれなければならない。愛と忠実と貞操、これらの徳を、あなたは自分の生命を宝として大切にするように大切にしない。

わたくしたちの教会はその組織をあげて、理想の社会の中にある理想の人々をつくろうと努力をしているが、結局これらの理想人、これらの理想の青年男女をつくる責任は、両親次に年長の兄や姉が負うべきものである。要するに、この責任は、社会組織の中にある神の単位である家族と共にある。われわれはその責任からけつしてのがれられない。

家庭の中の服従

愛のないところに家庭はない。あなたは大きな邸宅をもつことができるであろうが、(愛がなければ)家庭をもつことはできないであろう。またもしあなたがきたない屋根ときたない床の丸太小屋に住んでいても、この丸太小屋の中に、夫から妻に通ずる愛、子供たちから両親に通ずる愛、服従と従順とを与える愛、人生を価値あらしめる愛の神聖な原則が充

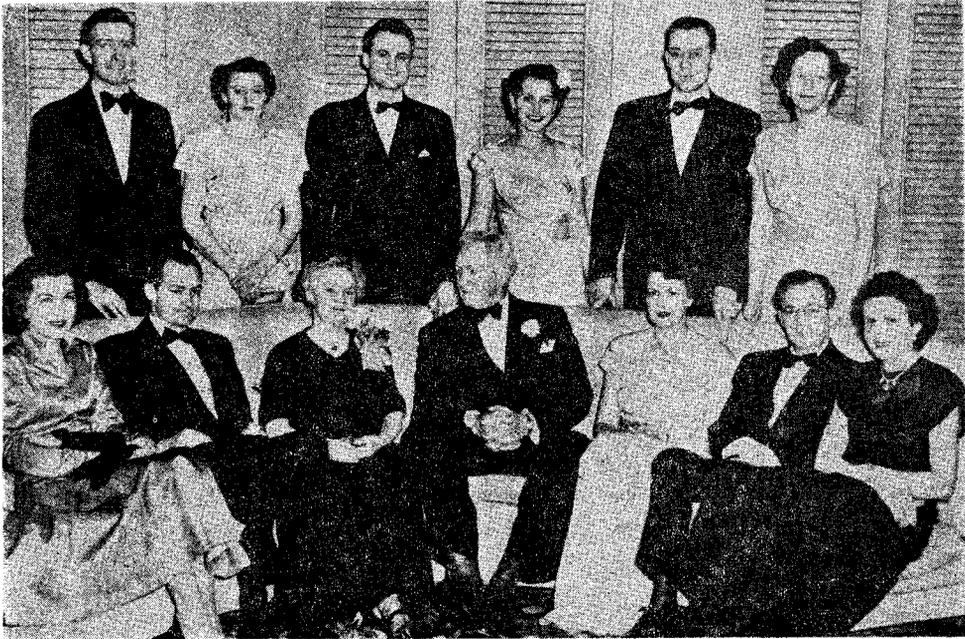
ち満ちているならば、世界中で最もすばらしい家庭がそこにあるのである。

もしも家庭の中で不服従の勢いが強いならば、両親はその子供たちが五才になるまでのうちに服従の徳を身につけさせることはできない、とわたくしは確信している。またわたくしは、幼児の生活のうちその最も大切な期間に、両親は服従か不服従かの種子をまくのであると思っている。わたくしたちの中には、その幼年期に年がら年中「ああしてはいけない。こうしてはいけない」と言っている人が居るが、この人たちは幼児たちに、父親の要求や母親の要求には従がわなければならないということを実感させていない。母親は幼児にむかって「それにさわってはいけません」と言う。しかし幼児はよちよち歩いて行ってそれにさわる。その結果はどうであるかここに不服従の種子がまかれていたのである。あなたは子供を罰してはならない。愛情をもって親切に、しかしきつぱりと、家の中には従がわなくてはならない種々の規則があることを子供に教えない。世の父親や母親たちよ、将来の人生を形づくるこの五年間に、幼児を良い方へ導く責任を大切に守り、またその責任を痛感されたい。

立派な家庭をつくることは

一つの技術

わたくしは家庭をあらゆる良い力を放



マッケイ大管長の家族 一九五一年撮影

射するもとであると見ている。また、ときには残念であるが、社会を毒する悪い力を放射するもとであると見ている。もしどの家庭にも例外なく、有能な母親と協力をする父親とがいたならば、わが国の法律官庁は無法者から社会を守るためにもっと仕事が減ったことであろう。

立派な家庭をつくることに関連して、わたくしが「技術」ということはを使ったことに、ちょっと考えただけで反対をする人々があるかもしれない。しかし「技術」ということは「ある目的をたつするために、手段方法を巧みにまた系統的に整備する、または採用すること。あるとくべつ目的をたつするために、知識または生れつきの熟練さを実際に適用すること」と定義される。わたくしにとって立派な家庭をつくりあげるために知識と熟練とを実際に適用することは、最も高度の才芸であると思える。それであるから「技術」ということはの真の意味でわたくしたちは立派な家庭をつくることは一つの技術であると言っても正しいのである。

立派な家庭をつくる技術には、父親と母親という二人の芸術家の仕事と熟練とがあらわれていなくてはならない。もしもこれら二人の芸術家の仕事と逆の目的で行なわれているならば、二人の努力の結果はしばしば失敗におちいる。もしもこれらの二人が、毎日毎日その生活の中で新しいものをつくり出してゆく働らき

にはたらきかけるとき、お互いがほかの者の必要を手助けするように調和してはたらくなら、その結果は人類にとってきまたげとなるのろいにならなくて、人類にとって名譽である宝となる少年や少女となつてあらわれるにちがいないと思うのである。

「われわれの人格の大部分をつくる者は母親である」と言つても父親の値うちと感化力とが減るわけではない。世界中で最も高貴な天職は母親であることである。本當に立派な母親であることは、あらゆる芸術の中で最高に美わしく、あらゆる職業（特に知能を要する職業）の中で最も偉大なものである。傑作を画くことのできる婦人、もしくは何百万人の心を動かす書物を書くことのできる婦人は人類の感嘆と賞賛を受ける価値がある。しかし、体が丈夫で立派な息子や娘たちを首尾よく育てあげて、絵画の色があせはて、書物や彫像が朽ちはてもしくは破壊された後々までも、その不滅の精神が感化の力を失なわない母親は、人類の与えることのできる最高の名譽と神の与えたもう最もすぐれた祝福とを受けるねうちがある。母親は永遠の靈に肉の衣を着せて人類に対する高い義務と奉仕とを行なうことによつて、創造主（つくりぬし）その方と協同して働らく者である。

家庭の中に（立派な子供を生んで育てあげる）芸術家である母親をもとうとするならば、祖先からひきついで性質と傾

向とをしらべることが大切である。母親の性質はその祖先によつて影響を受けているものである。

若い人々は、聡明な家庭の建設が、青年男女それぞれの十代から始まることをよく知ることが大切である。また後に人の親となつたときにめくまれる息子や娘たちの健康が、結婚前の自分たちの行動によつてしばしば定まるといふことをよく知ることが大切である。教会の教壇からも印刷物からも、またとくに家庭の中でも、若い青年男女は将来幸福になるか不幸になるかの基礎を今置いているのだといふことを、もっとしばしば声を大にして告げ知らせなくてはならない。とくに若い男の人たちは、ひきょう者やさぎ師のようになしに、真に男らしい男として責任をひき受けるために、自分の肉体を清く保つことによつて父親という大きな責任を受ける準備をしていなくてはならない。

また若い女の人たちは、自分の子供たちが罪と病氣とを持って此世に生れてこないように、自分の肉体を清くけがれなく保たなくてはならないことが大切である。罪や病氣を持たないで生まれ、高い性質を生まれながらに持っていることは、幼年時代の最も大きな祝福である。

現在この世界には、従順というある法則が働らいている。世の中には子供が従わなくてはならない、また子供が逆らつてはならない種々の規定がある。さて

子供がそれを学ぶところはほかでもない家庭である。もしもあなたが子供にあることをしてはならないと言つても、その子供がそれをするとき、あなたが叱らないでそのまましておくなら、それがどんなに小さなことであっても、おきてに従がわれないようであるといふ養成をしているのである。

家庭の中で子供が学ばなくてはならないもう一つのことには自分の欲を制することである。家庭は世界中で最適のところである。なぜならば彼はほかの人のために自分をなくするからである。彼は自分のかんしゃくをおさえつけるが、そこは父も自分のかんしゃくをおさえつけないでなくてはならぬところであり、また母も自分のかんしゃくをおさえつけないでなくてはならぬところである。かくして、その子供は自分の欲を制することのできるふん困氣の中で育つて行く。そして大きくなつてから社会へ出て遊び仲間と顔を合せたとき、その子供は遊び仲間を重んじ無視してはならないことがよくわかるのである。そして自分に都合のよいようにことが運ばないときには、家庭におけると同じように、運動場においても、自分をおさえていることに気がつくにちがいない。それであるから、子供が学ばなくてはならない第一の根本的な教訓は、世の中には子供が従がわなくてはならない、また順応しなくてはならないある法則があるといふことである。

大人の生活でもそうであるが、子供の生活における不幸は主に自然の法則や社会の法則に従わないうところから生ずる。後になって自然や社会が要求するよるな従順さを発達させるのに一番良いところは家庭である。

立派な家庭をつくる技術にすぐれていることほど、人生における高貴な業績を實際にあらわす道はほかにない。

家庭と子供たち

どの子供も一人のこらず与えられなくてはならない基本的なことが三つある。すなわち (1) 尊敬を受ける家名、(2) 安全感、(3) 発達の機会がそれである。

家族はその子供に、彼の名前と社会における地位とを与える。どの子供でも、自分の家族が友だちの家族と同じように良い家族であってほしいと思っている。どの子供でも誇りを以て「あれはぼくのおとうさんだ」と指さしたいと思っており、また自分の母のことを思うとき、聖い美しい楽しい感じをいつも感じたいと思っている。何によらずすべて美しいもの、楽しいもの、清いものに接したとき子供たちがいつも母親を思い出すような生活をする。こそ母親たる者の義務である。また子供が自分を模範にして善良な市民となり教会にあっては真の末日聖徒となるような生活をするのが父親たる者の義務である。

どの子供でも、自分が家にいるときは

外界の危険や悪から守られている避け所にいるのだという感じをもつ権利がある。この必要を満すには家族の一致と誠実が必要である。

どの子供でも、お互いの関係をうまく調整することのできる、生活の理想の現に望みを抱いて働いている、自分の子供たちを心の底から自分を忘れて愛している両親を必要としている。つまり、どの子供でも常識のある、あるていどの見抜く力をそなえている両親、子供の進歩発達にとつて、物質的にすぐれていることがらを与えるよりも、もっと多くのものを与える健全な感情の下(した)じをもっていて、これを子供に与えることのできる両親を必要としている。

自分をおさえることの価値をおぼえない。あなたは必ず、あのとき何も言わなくてよかったと思うにちがいない。自製の力がないことが、不幸と不和を招く最もふつうの原因の一つであるとわたくしは思っている。わたくしたちは、ほかの人の中に自分のきらいなものを目にする。それをとがめることはいとやさしいことであるが、その非難のことは、ほかの人に悪い感情を起させる。もしそれがわかってことばを出すことをつしめば、にくしみと悪意のかわりにすべてはただちに調和と平和につつまれるのである。ことばをつつしむということは、家庭に調和を得させる最も強い力の一つであるが、それをそだてあげない人々があ

まりに多いもの一つである。

子供たちを管理する面から見た自制について言えば、家族の者に影響を及ぼすから子供たちは無制限に走りまわることゆゆるさないうで、正しい指図と監督をしなければいけないと思う。それは、その子供にひどく当れということであるか。また子供にむちを加えよということであるか。けつしてそうではない。それは不必要である。しかし、わたくしの言わんとするところは、あなたが「いけない」と言うときにはきつぱり「いけない」と言いなさい、というのである。

いま家族をもっている人たちは、この高い理想をそれぞれの家庭にとり入れるように努めなければなりません。まだ結婚していない人々は、理想のモルモン家族をつくるように計画と準備をし始めなくてはなりません。あなたがその計画と準備を、「天の父なる神」がその靈感を受けた予言者たちによって定めたもうた原則にもとづいて立てるなら、大きな愛と永遠の喜びがあなたの家庭をみたくすにちがいありません。日本と沖繩のすみずみにいたるまで、強いモルモンの家族がつくりあげられますようにお祈りいたします。

△伝道部長会メッセージ▽

ホーム・テイーチング（二里目の喜び）

田中健治（第二副伝道部長）



『私、坪内兄弟好きよ』
上野めぐみ姉妹 4才

昨晚私たちは坪内兄弟と組んで行く最後の訪問を上野兄弟のお宅にしました。終って藤沢の駅で電車を待つ間六月二十四日からの七ヶ月半の二十六回の出来ごとを思い出しておりました。『私坪内兄弟好きよ』とめぐみちゃんから言はれた日の喜びを語る彼の目には涙がありました。私たちのコンビはお互に忙しいスケジュールで生活していましたが、これと百分のこのプログラムの責任を果たすように努力致しました。

真夏の汗を拭きながら……から凍る夜道を白い息をはく……までの誠感謝に満ちた夜でした。以下写真と出来ごとを通して新米の私たちが経験したことを書いて見ましよう。手引を見ますと二里行きなさいと言うチャレンジがいくつかの

項目に分けて出ております。その一つに訪問先の御家族の、誕生日、記念日、卒業その他の特別な行事について知りなさいとあります。上野兄弟の四人、斉藤兄弟の五人の御家族の誕生日のカードと小さなプレゼントは二月九日の正道兄弟七才をもって一巡しました。ある日上野姉妹は教えて下さいました。『あたしのカード頂いちやったのよ』とカードを手にして教会の中を飛び歩いて、めぐみちゃんのことを。このようにして私たちは仲良くなって行きます。八月十二日夜は始めての家庭同志のパーティでした。夏休みも中は過ぎた子供たちは花火大会の夜を首を長くして待ちました。この日は私たち家族と坪内兄弟にとっては忘れられない夜となりました。生れて始

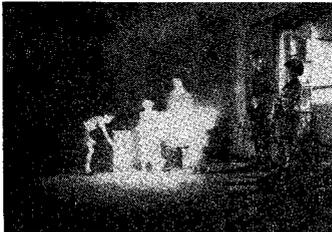
めて三人の子供たちは親を離れて寝たのです。従って九年振りに夫婦だけで星を見上げたりしながら並んで道を行き遠い先のあり方を少し理解することが出来ましたし、坪内兄弟とはレストランでおいしいカレーを喰べながら、彼のお嫁さんが料理の上手な人でなければならぬことを確かめることも出来たのです。翌日の輝く安息日の光を浴びて子供たちは上野兄弟御家族と一緒に神権会の前に列着しました。悲しい出来ごと私たちがホー



最初のH・T家庭パーティ

ム・テイーミングのプログラムで結ばれている間柄の中に起りました。

その夜の花火大会



ありながら最も忠実な会員として御家族あげて教会に集って来られる武蔵野兄弟の家庭を受持っていました。暑

くなって来て姉妹の病気は大変重くなり入院されました。殆んど毎日のように車を利用して彼は走り廻りました。安息日には聖餐を持って。また支部長さんに連絡し扶助協会の助けをうけられるようにしました。斉藤兄弟のお宅をホーム・テイーチャーとしてお尋ねすると、祈りの中に武蔵野姉妹の回復の願いが子供さんたちの口からも熱心に捧げられていました。しかし神様のもとに人の思いを超えて武蔵野姉妹は召されました。告別式の席で彼のホーム・テイーチャーとしての思い出と願いが『姉妹が感謝に満ちた謙遜な方であり、その信仰と誠実さは我々の模範であったこと、夫婦仲の良さは……』と語りながら絶句させ、彼の兄弟愛が深く強められていることを見せられました。



斉藤家での御馳走

さい由貴ちゃんはまだ一才をすぎたばかりから晃治君、理恵ちゃん三人の子供さんが待っておられるので四回



鎌倉の大仏前にて



上野兄弟の
カメラマン

上野兄弟の子供さんと我が家のアパッチとは年も接近しており既に大分仲良くなっております。そこで家族ハイキング



聖書物語の勉強

目の夜、この次からは食事はいたしませんと申上げたときのことです。晃治君が大きい声で一緒に喚べて呉れな



止まらないで渡り切れば出世する！
と言はれている大鼓橋
トライする正道兄弟



荷物をもっても出世
出来るH・T



コース協議中の
ホーム・ティーチャー

グを計画しました。お金は掛けずに子供中心で。写真のように大変好評でしたので、再度十一月二十三日に子供の園ピクニックを計画しました。今度は上野兄弟

我家のホーム・ティーチャーは浅間兄弟と岩波兄弟です。子供たちは特に楽しみにしています。今、レッス

総勢は十四名になりました。その楽しさは大変なもので本当の家族のような親しきになりました。

家も参加して下さることになり、

大人も子供も大喜び



牧場で



ゲーム



上野、小室、田中各家のオニギリ競食



飛びすぎたのも思い出



とにかく面白い
(大人たちも)

→ブランコは二列



→大スベリ台
ワイイ



ンはヤコブがおよめさんを探した出掛けでラケルに会った所です。学校で親切にすること、毎日勉強の予習復習することとは今日約束した所です。来年の正月は出来たら浅間兄弟に指導して頂いてスキに行こうかと計画が始っていますし、



大歓迎を受ける浅間、岩波HJ



子供たちのレッスン中

に良かったようです。毎月一度か二度の訪問なのにホーム・ティーチャーは家族の中に福音の喜び（成長、進歩の喜び）をもたらし、互の間に味わいのよい愛の交流を作ります。これは神様が、みたま、によって援助して下さいていること

三月八日の岩波兄弟の結婚式が信州のお国でなくて横浜支部で行はれることになったと聞いて歓声を上げた所で、一番上の明彦は恥しがりで他の人と打ちとけることが出来なかつたのに他人でない人が増えて本当の証明です。大人の間の話もまた子供のしつけ、仕事の悩み、福音の討論、特に福音を現実に応用するやり方等々果てる所を知りません。私の経験外のことですが、独身の兄弟を訪問しているベテランのホーム・ティーチャーは結婚の目標と、お嫁さんの決め方、実際の仕方について良く話し合っているそうですから立派な家庭が生れるに違いありませんし、またある新婚家庭を担当しているカップルは、御主人の相談をうけて、御主人が恥かしくて仲々切り出せない家計のやりくりについて、愛する御主人が疲れて帰って来るのを慰めようと張切って御馳走を作って待っている親切な姉妹に、上手に家計簿のつけ方を教授して貰ったりしているそうです。お年寄の家族を訪問するホーム・ティーチャーたちはきつと息子たちのように思はれて、お互に慰めと向上を受けるでしょうし、先祖すらも系図プログラムの進行によってホーム・ティーピングを楽しみにしている筈です。

新しい私の同僚はアロン神権をもつ市川兄弟です。私たちは新しい友人関係を神様の愛の影響の中にまた造り出して行きます。このような紐替になって始めて私が見ついた祝福があります。これは手引にないことですが坪内兄弟と私との間にきつても切れない愛と理解が生れて

いることです。仕事の都合で横浜で待ち合せ出来なかつた夜は藤沢で打合せなしに落ち合いまし

たし、プレゼントやカードのチェックが出来なくてもちやんと手に下げて来ていると言う具合です。別の組になりましても私たちは神様の祝福配達員としての同志です。

そして霊界に行きましても、あのトマト畑の薬蔭でしたホーム・ティーピングのために祈った出来ごとを語り合うでしょうし、これから一生の間組合うまだ知らない兄弟たちとも、与えられた家族の方々が信仰と努力によって弱点を克服し、チャレンジを達成して行った輝かしい栄光の道の出来ごとを語り合うに相違ありません。兄弟たちの皆さん、ホーム・ティーチャーに召されて下さい。兄弟姉妹の皆さんホーム・ティーチャーを歓迎して下さい。支部長さん神権指導者の皆さん、手引に従って神様から、みたま



我が家の食事時間と重りますので手引にはないですが



今年の4月から登校ですね



子供たちへお土産（うれしそう）

ま、を受けられるプログラムを完遂して下さい。『もし私たちが互に愛し合うなら神はわたしたちのうちにいまし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。』

新年のごあいさつ

北から南から

(その2)

北から南に細長く延びている北極東伝道部は、北海道・東中央・西中央・九州・沖縄の五地方部に分れ、支部の数は今まで三〇、会員数一万を起え、一月一日に福島・北九州・熊本・長崎・高松が支部

として組織され三五支部になりました。輝かしい一九六八年を迎えて、各地方部長と支部長の新年のごあいさつをここに集録しました。(前回間に合わなかつた支部をこの号に掲載しました。尚写真説

明文中の(P)は地方部長または支部長(1)は第一副地方部長または第一副支部長(2)は第二副地方部長または第二副支部長(S)は書記(S補)は書記補助です。

新潟支部

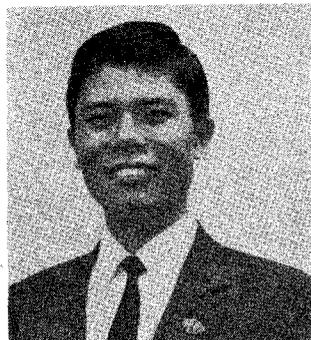
新春を迎える慶びと共に本年も倍旧の御支援、御指導を御願ひ申し上げます。昨年中は二度の集会所移転に伴い、関係各方面に多大な迷惑をおかけしましたことを謹んで御詫び申し上げます。主の恵みによりこのたび、新潟市明石通三丁目四〇―一(新潟駅近く)に集会所が与えられ現在、定時に集会をもっています。振り返って見ますに、教会堂の移転事は私たちに与えられた単なる迫害でもなく、むしろ自己啓発でありました。これにより教会堂建築計画の意欲が高まり、現実化の歩みが会員相互に現れてきたことは確かです。たとえば、現在建築宣教師と宣教師が一人づつ召されています。また近日には、地方部宣教師も発足しようとしています。一方資金面では目標額の四分の一に達し、今後の目標額達成とその期日は、会員の犠牲の如何にかかれていた状態です。

支部の今年の目標は建築計画に並行して組織づくりに重点をおきます。組織づ

くりから米づくり迄、そして永遠の家族づくり迄、間断なく推進するつもりです。全国の皆さん、正月の食卓を賑わしている餅(越後米)の味の豊かさはいかなるものでしょうか。その粘りの如く、そして其の白さのごとき純潔を尊び、今年も北日本唯一の礼拝堂を建設したく、多くの先祖の同胞の礎となり、働きたく願っています。いつの日か、チューリップ咲く教会堂より多くの宣教師がこころ、隣国に伝道に出かける日々を指折り数えて居ります。

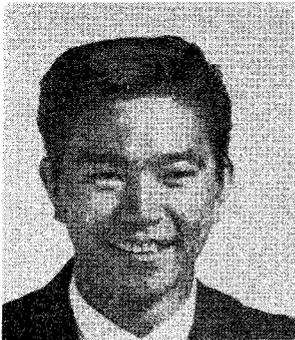
おわりに、スキーや観光にお出かけの節は、滑りついでに新潟支部に御立寄り下さい。心より御待ちしています。死に生けしこの世にある者、これより来る者、全ての霊として造られしものの上に、良き年であられるよう祈っています。イエス・キリストの御名に依りて、お祈り致します。アーメン。

石坂晃一



石坂長老(P)

フチガミ長老(S)





福岡支部

明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、新たな決意をもって、神様の王国が本当に、がっちり根を土の中に張って伸びてゆかれるよう、一生懸命に努力したいです。今私たちのまわりに起っている色々な事柄、たとえば宇宙開発、中国の文化大革命、ベトナム戦争等、多くの現れは、良かれ悪しかれこの地球上において、イスラエル人の集合と、キリストの再降臨の予言の成就に向って、世界が進展するときに起る波動の片鱗のように思はれます。そして地球上のいたる所で人の心が沸騰している鼓動が感じられます。これこそキリスト再降臨の近づいている歴史的な前兆でなくてなんでありましょうか。

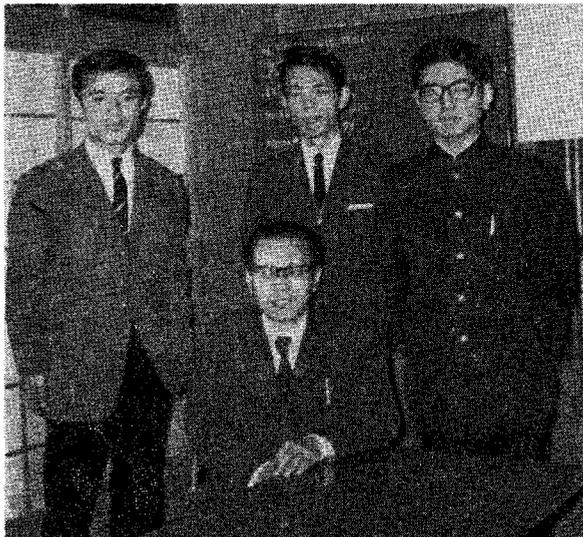
今こそ地上に生を受けている多くの人々、またなくなられた多くの先祖の人たちの、永遠の救いのために全力を尽して頑張るべきときだと思っています。畑は早白くして刈り入れを待つが故なり、と主が言われた啓示がつくづくと心に迫ります。私たちは教会の幹部を心から支持し、教会のプログラムの完全な遂行ができるよう、新たな決意で忠実に神様から与えられた責任を遂行しなければな

りません。これこそ私たちの生れてきた根本の目的であり、完全な喜びの得られる基礎であると信じます。全国の忠実な会員の皆様、手をとり合い、協力し合って神の王国の建設に邁進しましょう。

吉沢敏郎

写真左より

- 長 浜 修 (2)
- 吉 沢 敏 郎 (P)
- 多 田 重 剛 (1)
- 重 岡 政 信 (S)



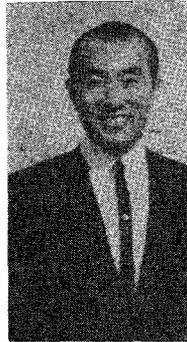


東京西支部

一九六八年 西支部ゴール

新しい年を迎え、今年も充実した年にしたい。昨年は末月聖徒としての鉄則、
◎聖典の研究、◎活動に参加し教えを實踐する、◎真の祈りできる人になる……の徹底を計ったが、特に、聖典の研究の仕方と自主的な教義の体系的研究を勧め、その成果がはつきりしたのでうれしい限りである。今年も真摯な態度で物事に徹するため、この鉄則を唱導していきたい。この上に次のことを支部の目標としたい。

菊地良彦 (P)



一、召しの意義と神権政体の本質の理解

二、個人の神権の発場

三、家庭の神権の登場

四、社会に於ける神権の発場

五、個人と神様、指導者、家庭、友人との調和と一致

六、新会員養成の徹底的研究と分析

七、各集会の意義、目的の徹底

八、面接と個人指導の徹底

(支部長会、神権実行委員、会長)

九、教会の標準を会員に知らす

内山雅亘 (I)



十、経済的観念と予定計画 以上

これらは教会が存続する限り、モルモンとして心得ておかねばならぬことかもしれないが、年間を通じ、この十の目標に徹してみたい。「志望なき人は聖人も、これ如何ともすること能わず」とは救世主の言葉、想いを天に向け、大志をいだきつつ、目先の諸問題から一つ一つ処理して行きたい。

菊地良彦

工藤駿一 (2)



(23頁より続く)

とよばれる混成軍都合七軍団がとりまいていた。独立宣言発布の前月、最後のユダヤ人根拠地ワツシユ・エチオンで四〇〇人のユダヤ人義勇兵が戦ったが全滅してしまつた。一八四八年五月十五日テルアヴィヴの美術館で、ユダヤ人機関の議長ベングリオン(のちの首相)が独立宣言を言った。そして共和国をイスラエルと名づけた。そして直ちに自らの生存のために戦つた。二千年間にわたる故国へ

の不屈の魂が、全ユダヤ人の胸にもえ、想像されなかつた戦闘となり、アラブ人を次々と不利におとし入れた。見事に独立を勝ちえたのである。

(40頁より続く)

なる分野においても、この世的な勝利や永遠の勝利は得られないのである。誠実であることにより主の戒めを守るべきことを、学び、知識を求め、自分の

限界をこえた勝利を得るべきことを、そして神と人を愛し、すべての人のために奉仕することを学ぶべきである。「されど信仰なくば、汝何事も為し得ざることを忘るなかれ。故に何事も信仰をもって求むべし。」(教義と聖約八・一〇)

真の祈りは我々が神の助けを受けるため、その戸を開くのである。

ホーム・ティーチング

神権者としての働き

牧瀬 十二郎

(岡町支部)

私と林兄弟はホーム・ティーチャーとして七月の第一日曜日に最初の訪問をした。未経験なことではあったけれどもこのホーム・ティーチングの意味を事前によく学習し、またハワイのステーク部の人々の成果を見聞きしている私にとつては、一沫の不安と勝利ある未来の感激が交錯していた。決心はできた。自分の信仰を具体的に、明確に、誰にでも分るように、形として、行為として、日常生活に示すのはこのホーム・ティーチングのホーム・ティーチャーとしての働き、すなわち神権者としての働き以外にもっとよい働きがあるとは信じられない。

ホーム・ティーチングは訪問される家庭の人々だけでなく、支部長の代理として召されて訪問するホーム・ティーチャーたちにとつても、喜びの現実感是他の信仰の働き以上であると信じます。

私たちが最初の訪問をしたとき、その訪問先が活発な大神権者のうちであるとはいえ、ホーム・ティーチャーとしての責任の重大さに驚いた次第です。

理屈や言葉ではだめです。現実の行爲を具体的に示す経験の深さ、ずばり分析する洞察力、親切、愛、思いやり、靈感またまなど私たちの霊的、物質的生活の

あらゆるものを、全部このホーム・ティーチャーとしての働きに使わなければ成り功できないことがはっきりと実感できました。二回目のときはすっかり、先方の家族は私と林兄弟をホーム・ティーチャーとして信頼して下さっている態度を示して下さいました。

私は教義と聖約八十四章の言葉の厳しゅうくな意味を思い出しています。

「……すべてこの神権を受け入るる者は、われを受くるなり。そは、わが僕らを受け入るる者はわれを受くればなり。」

私たちの訪問先の阪本弘兄弟の家族は岡町最古参のホルモンの活発会員家庭です。信仰のうえでも実社会の経験度においても私たちホーム・ティーチャーの比ではないのですが、私たちを主の使いとして受け入れて下さって、神権を中心とした真のホルモン家庭の理想に、よりよく近づく努力を家族全体で計画されています。



す。主の救いの完きを受けるために神権中心のホルモン家庭の実現の契機をなしたホーム・ティーチング・プログラムの素晴らしさに主の智慧の深さを感じています

今では私たちはすっかりこの家族と仲良く交わりを保っています。先日は七十才で「古稀」の祝いをなさ

死んだ神は神ではありません。

ったおばあちゃんの幾代姉妹の誕生日を計画しました。岡町支部の会員は私たちに、寄せ書きをつくったり、それを納める額ぶちを贈って下さいました。

幾代姉妹の喜びの声が忘れられないで

す。「長生きはするものですね……」とか、「親戚

がもう一軒増えたと思って

います」と何回もくりかえして

していました。言葉の意味は私たちに何よりの喜びを与えてくれました。

神権は受けて尊いのではなくて、受けて主の業のため活用して、はじめて価値と神聖さが理解できるもの

のようです。神権の完全な理解はできない私ですがその誓詞と誓約によって神権者として働くときにいくらかでも意味の把握ができると思



訪問を受ける喜びと 訪問の楽しさ

児玉 栄 治

(東京南支部長)



ホーム・ティーチングのプログラムが行われておりますことを感謝しています。

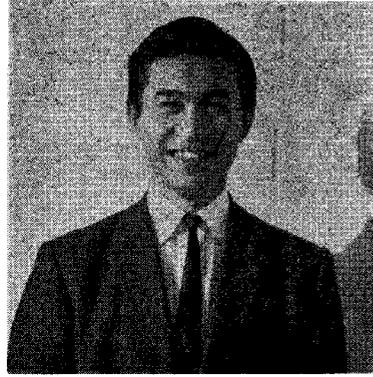
私の家にも毎月ホーム・ティーチャーが訪れます。前もって電話連絡により、訪問日が知らされ、当日は姉妹も共に心待ちです。私共のアパートの入口の扉が開く音を耳を澄まして待ちわびる気持は、なんとなく落着かず、姉妹との話しも自然と言葉少く、声も低くなります。こんな気持は訪問を受ける家庭はどこでも同じではないかと思えます。さてホーム・ティーチャーが、今晩わ と入って来ると、本当に安心した気持になり、今までの緊張感を忘れて話が軽口を飛び出してきます。私たちのホーム・ティーチ

ャーであると思えば、どんなことでも遠慮はいらない。また何事でも相談にのってもらえる。私共の助け人である。……私共の家庭にやってくるホーム・ティーチャーは地方部の責任をも果している兄弟たちです。忙しくても常に私共の家庭のことを考えて下さり、かつ私共の親しい友だちでありますことを感謝しております。私たちの家庭の内には未だ大きな困難な事柄が起っておりませんが、若しそんなときは、ホーム・ティーチャーに連絡すればよいのだという安心感で毎日を過せます。このプログラムが全ての家族に実施される様にと願っています。はからずも私自身、ホーム・ティーチャーとして召され、二家族の割当てを受けました。同僚として寺坂兄弟が召されています。寺坂兄弟は大変忍耐強く、寛大で訪問の待合せにも、長い時間私を待って下さったこともあります。私たちが訪問すべき家族の方々は、今何をしているだろう。どんなことに興味があるだろうと、頭の中で想像することは実に楽しいことです。同じ信仰を持つ兄弟姉妹の元気な顔を早くみたいと思う気持で、遠い道も知らずと急ぎ足で歩くのも何となく愉快であります。この主の計画を少しでも果すべくいっしょうけんめい頑張りたいと思えます。

証

増井重之

(東京西支部)



自分自身を見て、本当に神様とは偉大なものであり、この世に神の子として生を受け、この神権を授けて下さった天のお父様に感謝して止みません。先輩同僚であります菊地兄弟は常に私を励ましてくれます。そしてそれによって実に菊地兄弟という人間を、深く知る事ができました。暗い夜道、誰も通らない様な道を歩いている時にこの様なことをおっしゃって下さいました。「増井兄弟、これが福音ですね。私達は決して無駄なことをしているのではない。神様の偉大な召によって、その御許に身も心も深くはべる事ができるように一生けん命やりましょう」と。

祭司の義務の中に「各会員の家庭を訪れ、彼らが声をあげてもひそかにても祈りをなし、又すべて家庭の務にいそむることに勧め……」ることが教義と聖約に明示されております。私は菊地兄弟とこの神聖な奉仕の機会に恵まれ、私が教会に入って得た喜びを、少しでも伝える事ができたと思っております。それは言葉だけではなかったのです。私の体からにじみ出てくる笑顔、態度です。最初に訪れた時として二度目、三度目と回を重ねるにつれて、笑声が多くなり家族の方の顔が明るくなってゆくのがはつきりわかりました。バプテスマのヨハネが「汝ら我と同じ業に働らく僕らよ。」とおっしゃたように、天使と同じ業に働いている

神様からいただいた聖なる権能であることを証し致します。

「これをもつて汝らは今の世の人々に悔改めを叫ばん為に召さるるなり。而して汝らもし生涯今の世の人々に向いて悔い改めを叫ぶことに力を尽し、唯一の人たりとも我に導かば、我御父の國に於いて彼と共に汝らの喜び如何ばかりぞや。見よ、我福音、我誓、我救いは汝らの前にあり。」すべてイエス・キリストの御名によりてこれらを記します。アーメン

証

赤松成次郎

(東京西支部)



私がホーム・ティーチャーに召されて早七ヶ月以上になります。その間に生き生きとした福音を各家庭より学ぶことができました。ホーム・ティーチャーであっても実際には先輩同僚についてゆくだけです。いつも教えられる方です。現在三家

族を訪問しますが皆素晴しく活発です。そこで一家族に焦点をあてて述べます。

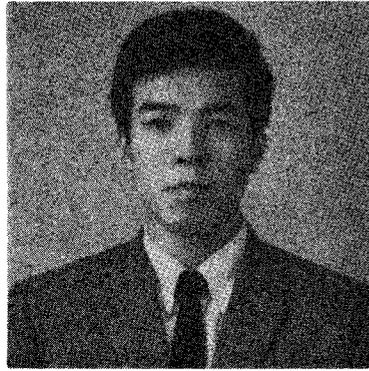
その家族は子供が四人で初めてのときは話しかけても返事がない程人見知りしてしまいました。しかし今はもうすっかり慣れました。一番年上の男の子は日曜学校に出席して学んでいますし、女の子二人は子供日曜学校の活発な生徒です。また一番年下の男の子は、私たちが初めていったときはまだ幼なくて話しができませんでしたが、今は上手に話が出来ます。そして西支部の兄弟姉妹にかわいがられて成長しています。ホーム・ティーチャーである私たちの名を憶えて、○○兄弟と呼びます。訪問先の子供たちが福音を学び、成長を続けてゆくのをみる事ができる以上にホーム・ティーチャーの喜びはあるでしょうか。それはホーム・ティーチャーへの大きな祝福であります。また無心な子供たちを見ると、心の安らぎを得ることが出来ます。訪問後の帰り道先輩同僚よりの教えがまた私の気持ちを安らかなものにして下さり、強いものとして下さいます。そのように素晴らしい祝福を与えられますことを、本当に感謝しており、立派なホーム・ティーチャーになろうと心を強くしています。

「あなたが召されたのは、実に自由を得るためである。ただその自由を肉の働らく機会としないで、愛をもって互に仕えなさい。」(ガラテヤ人への手紙五・一二)

ホーム・ティーチング について

西条 誠 司

(横浜支部)



日本でホーム・ティーチング・プログラムが始まって、すぐにこの尊い責任を受けることが出きましたことを非常に感謝しております。そしてこの責任を果すときに、神様の祝福にあずかり、私自身霊的な進歩が出来ますことを感謝しております。このプログラムに参加することによって、私はいくつかの良い経験をし、その中から良いものを見出すことが出来ました。まず時間の使い方、このプログラムに参加している兄弟たちの大部分は、昼間働き夜は教会に来て組織の活動に従事しており、時間のない人ばかりですがその少ない時間を二人で非常にうまく使っ

ていることに驚きます。また私たちが家庭を訪問したときにその家族全体にある雰囲気や、個人個人の今まで教会において見られなかった、個性の一面を発見し、さらに親睦を深めることが出来ます。そしてモルモンの家庭を訪問するときに、まだまだ若い自分にこのような素晴らしい家族を将来設立するに非常に勉強になります。なぜなら私たちは、何の勉強にしても視覚教材というものが大変効果を発揮いたします。ですから、この目で見て耳で聞いて、身体全体で感じ取る程良い勉強はないからです。神様は一人が成長するより、二人三人それ以上の者が共に成長することを望まれています。この召を受けることによって身をもってそれを感じる事が出来ました。私自身の家にも二人のホーム・ティーチャーが必ず訪問に来て下さいます。私の家族は父だけが会員ではありませんので、ともすると家庭において霊的なものが薄らぎがちになり、この訪問者たちによって、また新しい活気をおびた何物かを持ってきて下さり、いつも家族の心が満たされております。私たちの努力と一致協力とがこれからのホーム・ティーチングを一層強固なものにするにちがひなく、またこの業を成すとき、主の大きいなる祝福をうけることを証詞いたします。

ホーム・ティチャー に召されて

大久保 厚 司

(横浜支部)

昨年九月にホーム・ティーチャーに召され、不安と期待とで早くも五ヶ月がたちました。私自身、教会員となつてまだ一年足らずなのに甘やかされることなく、この重要なホーム・ティーチャーに召されたことを本当に感謝致しております。特に私のパートナーとしてモルモンの大先輩、渡部正雄兄弟と共にこの責任をいただくことができたことは、何もわからない私にとつて、鬼に金棒、これほど心強いものはありません。おかげで学ぶべき所は本当に大きく、とても勉強になります。また、ホーム・ティーチャーに召されて半年程ですが、既に数多くの思い出ができました。そのひとつに先日、ある兄弟の家に訪問する夜道に素晴らしい美しい月が出ていました。そのとき、渡部兄弟はモンゴルの砂漠のお話をして下さり、二人で「月の砂漠」を歌いながらその兄弟の家へ向かいました。本当にホーム・ティーチャーとして忘れることのできない思い出です。私が訪問している家は二人ともMIA役員の兄弟です。そのためか訪問して、つい話がはずんでしまうと、なぜか本物の兄弟のよう

な気さえしてきます。しかし、両兄弟とも家族の方々がモルモンでないのが本当に残念です。でも二回、三回と回を重ねて訪問するこの頃では歓迎はもちろん、私たちの話にも積極的に御出席して下さいようになり、教会への理解が深められたのではないかと喜んでおります。そして私たちホーム・ティーチャーが努力する上に神様とイエス様の導きがありまして、両家族の方々も、きっと信仰の道を歩んで下さるのではないかと信じています。

(20頁より続く)

ら、「ああ、主は確かに生きていらっしゃる」とこのとき程、強く感じたことは未だ無かった経験でありました。会員の皆様ホーム・ティーチングをしましよ。私たちはバプテスマの意味を理解し合った兄弟姉妹ではありませんか。私たちの回りにはちよつと手を貸して引張って上げなければ福音の無知から意義の無いときを過ごしている同胞がいることを考えなければなりません。今すぐ彼等の閉ざされた門をたたこうではありませんか。

三の宮支部に於ける ホーム・ティーチング

新谷 国昭

(長老グループリーダー)

デビッド・O・マッケイ大管長は、パウロの言葉を引用して、ホーム・ティーチャー役割を説明しておられます。

それは聖徒たちをととのえて、奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、わたしたち全ての者が、神の子を信じる信仰の一致と、彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついにキリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。(エペソ書四、十二―十三)

私たち三の宮支部の長老が、ホーム・ティーチングの声を聞いて、早や、一年を過ぎました。実際には昨年の六月に地方部の指示に従って、五組のホーム・ティーチャーにより、活動を開始した訳であります。活動当初は、以前ランチ・ティーチングのプログラムがあったとはいえず、それに携わっていた長老はわずかで、方法が、ブランチ・ティーチングとは、少し違うということで、まったく五里霧中の状態でした。しかし乍ら、幸いなことに、ホーム・ティーチングの手引が、懇切丁寧に手を取るよう書かれ、また、地方部のよき指導を得て、段々と活動がそれらしいものとなってきま

した。

現在の活動状況は、五組のホーム・ティーチャーが、主として支部の長老の家族を夫々二家族づつ担当としてもち活動しております。

ホーム・ティーチャーも未だトレーニングの枠を出ておりませんが、それでも月一度は二つの家族を必ず訪問する様に頑張っております。おかげで、家族との関係も、段々と親密さを増して、ある家庭では、ホーム・ティーチャーの訪れを待ちこがれている所もあります。

現在、支部長会及び、グループリーダーより、各家族個人個人に対して、チャレンヂが与えられておりますが、現在の所、ある場合には、そのチャレンヂを強調しない方針でやっております。と申しますのも、これまで、数ヶ月に亘って経験した結果、各家族個人をよりよく理解し、ホーム・ティーチングの本当の姿を表わしていくためには、まず信頼を得るように、歓迎されないホーム・ティーチャーとならないようにということが、前提条件であるということを自覚しました。顔つなぎに訪問し、チャレンヂを強要すれば必ず失敗するでしょう。

信頼されるホーム・ティーチャーとなるには時間を要します。地方部大会の時に紹介されたホーム・ティーチングに関する映画でも、ホーム・ティーチャーが真に信頼されるには、一年有余の時を要しております。また出来る限り時間をさ

いて、何度も訪問し、家庭に入れば、小さなことにも気を配ることであります。約束は必ず守り、教会に出席すればよく面倒をみ、家族の誰かの誕生日には誕生祝いを贈り、家族の中にとけ込んで何でも話せるようになること、そうすれば、家族からも、何でも話しかけてくるようになりやす。このようになれば、チャレンヂを与えても、失敗の度が少なくなり、ホーム・ティーチングの真の目的がそこから達成出来るわけであります。私たちの支部では、そういう方法で成果をあげつつあります。あるホーム・ティーチャーは、担当家族の子供が病気になる時、すぐ祝福に来てくれるようにと一番に頼まれ、また他のホーム・ティーチャーでは、弟のお嫁さんを探してほしいと頼まれております。

このように、家族とのよい関係を打立てるために一生懸命努力しております。

あるホーム・ティーチャーは、共に系図を探究し、他のホーム・ティーチャーは、家庭の夕べを共に開き、またあるホーム・ティーチャーは讃美歌を共に大きな声で唄い、また他のホーム・ティーチャーは、共にひざまづいて祈り、また、ある組は子供の誕生日におもちゃをプレゼントしております。

二月の地方部大会で、長老が、新しく二名誕生したので、来月からホーム・ティーチャーの数が増えます。それらのトレーニングの意味で、毎月第三火曜日に

セミナーをもって、より高度なホーム・ティーチングへと準備をしております。

ホーム・ティーチングを行うことによりホーム・ティーチャーは、経済的に、また時間的に、大きな犠牲を捧げておりますが、ホーム・ティーチャーの働らきにより最初の聖句にもありますように、担当家族の一人一人が昇栄を得て、神々となる事が出来ることを思えば、それらの犠牲は何でもないのであります。

ホーム・ティーチャーの一人一人の上神のかぎりない祝福と御恵みがあるように心から祈ると共に、今後益々、ホーム・ティーチングが活発となり、目的が達成されるように祈る次第であります。

ホーム・ティーチャー の訪問を受けて

高城 潤子

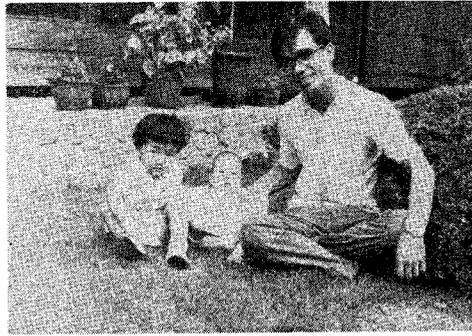
(西宮支部)

地方部で、ホーム・ティーチングの計画をなさっている事を知った時、なんて素晴らしいプログラムでしょうと、その計画が実行されるのを楽しみにしていました。どの支部にも共通の点があるかもしれませんが、私たちの支部でも人数が少いため、ほとんどの方が責任をいただいていますので、兄弟姉妹とは云っても、特に責任を同じくしない方たちにとって、ほとんど交りのチャンスを得られ

ず、日曜日もそれぞれの集いが遅くまであり、私自身少し淋しい気持がしていました。その中で、交りの機会は姉妹の間では扶助協会の家庭訪問、兄弟とではホーム・テイチングとなっています。

私宅に来て下さるホーム・ティーチャーは、第二副地方部長さんである田中兄弟と、第一副支部長さんの沼野兄弟ですが、お二人共とても

立派で、お忙がしい方たちですので、私はあまりお話をしたことはなく、いつも遠くから彼等の細い所まで神経の行き届いた働き振りに感心し、心から御尊敬申上げていました。そのためか何だか親しくお話しにくい、いかめしい方たちだと思ひ、最初は訪問を受けるのがこわいようでした。でも私にとって彼等は素晴らしいお手本でしたので、この機会をいただきましたことを心から感謝しております。始めいらした時は、私も堅くなってしまうましたし、下の子供は丁度人見知りの時期だったのか、顔を見ては泣いていました。毎月どんなにお忙がしくとも必ず一度もかかされたことのない熱心な訪問により、子供たちもすっかり慣れ



今ではとても喜んでお迎えしている様子で、本当に彼等の働きに心から感謝しております。

この訪問を通して、私たちは彼等と本当に親しく話し交る機会を得、またなにごともためらわずに御相談にのっていただける安心感をいただくことが出来ました。また彼等の身体からにじみ出る信仰

と励ましの言葉に、いつも新鮮な証と勇気とを得られます。とを心から感謝し、毎月その日その日を楽しみにしています。

ホーム・テイチングを御計画下さいました方々に心から感謝し、いつも喜んでその働きをなさって下さっています。兄弟たちに本当に感謝致します。これに

より私たち同様、多くの兄弟姉妹が、神様の大きな恩恵を受けていらつしやると信じております。神様の豊かな恵みと導きが、彼等ホーム・ティーチャーの上にもいつもありますことを、また私たち受け手者が、いつも謙遜になってその計画に積極的に協力出来まます様、心からお祈り致しております。

九州地方部発足

一月二十七日二十八日の二日間に亘って開かれた、北部極東伝道部の最初の地方部大会は、九州の福岡支部で行われました。

新年より支部になった長崎、熊本、北九州の会員たちを加えて百十二名の人々は、新しく任命された石川修九州地方部長を全員一致で挙手支持し、九州地方部は発足しました。福岡支部を中心にして、一年前に伝道を始められた三つの町の会員たちの方々には更に密度の高いプログラムが祝福として求まりました。美しい数寄屋造りの福岡支部の建物の中には、新しい立場に喜んで奮発している魂で満ちあふれ、輝いているようでした。兄弟姉妹の方々が責任を果せるよう、そしてみたまの導きがつねにあつて九州の地に神の御意が成就する王国が、速かに建設されますようお祈り致します。



九州地方部長会



九州地方部長会・支部長会



九州の聖徒たち

ホーム・テイチャー を迎えて

安久津 洋子

(西宮支部)

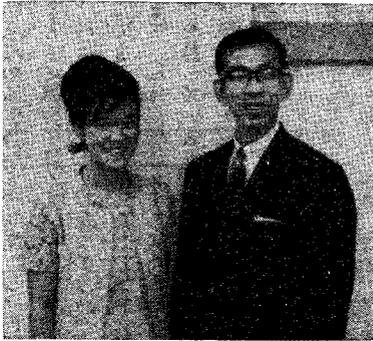
結婚して四ヶ月、私たちはこの間三回のホーム・テイチャーを迎えました。第一回目の集いときには、支部になれましたか？ 友だちは如何ですか？ 会員たちをどう思いますか？……といわゆる新しい支部に入っただけの感想で別にこれといって感動する所もなく、ただ楽しかったと言っただけでした。それから回を重ねお互いをはっきり知るようになり、支部の内容もつかみはじめるにしたがって、心を打ち開けて話をするようになりました。回数ほんのわずかの訪問にすぎませんが、問題、相談事があったときに、まず第一に話そうとするのはこの二人となりました。私たち夫婦にとって、ホーム・テイチャーは大変重要とされております。私がこんなに早く何もかもお話しが出来信頼出来るようになった理由を考えてみましょう。

- 1 以前から知っていたこと。
- 2 安久津兄弟の大的友たちであること。

3 兄弟が各支部を訪問しているため集会にはいつも一人です。

その中であって一番気をつけて下さる方がこのお二人でした。この他数多くあ

りますが、私たちにあって毎月一回の訪問日がとても楽しみの一つとなっております。ただ楽しいというだけでなく、兄弟がほとんど夜遅いため話し合う時間が持てず、この機会を通して語りあい、直接言えないことでも、二人の方によって間接的に言えるため、その場にあっても、気持よく聞くことが出来ます。多くのチャレンジが与えられることにより、心を新たに持つことが出来ます。私自身、こんなにホーム・テイチャングが大きな役割を持っていることを、全く知りませんでした。二人の兄弟が帰られた後、私たちの廻りには、温かい空気と希望、喜び、証しが残っております。この計画された組織は、ほんとに素晴らしいものだと心から感謝しております。二つのカップルが一つに結ばれた時、どんなに素晴らしいことでしょう。



このことにまだお気付きになっていらっしゃらない方がありましたら、一日も早く理解され、信仰生活を豊かに過ごされますことをお祈りいたします。

安久津 嘉信

(西宮支部)

ホーム・テイチャーの訪問を受けてから、私たち安久津家にとって、月一度のミーティングの日が楽しみの一つとなりました。これは先日二人でホーム・テイチャーについて話しあった記録です。

(兄弟) B結婚して約四ヶ月余りになるが、その間正式には三回、非公式には何回となく彼らは訪問して下さったね。今では、わが家の定期相談会のような感じだね。

(姉妹) Sそうね、私もあの二人が訪問して下さる日がとても楽しみなのよ。B姉妹が柳井から西宮に来て、支部にすぐとけこめたのも彼らの助けがあったからだね。

S西宮支部の中では、彼らを一番良く知っていましたものね。B僕たちのことを一番知っているのは彼らだからね。また、結婚前の問題も全て、彼らに話していたし、今では我家のアドバイザー。ほら僕が会社や地方部の責任があつて、二週間も落ち着いて話し合う機会がなかったとき、ホーム・テイチャーの訪問を受けたおかげで、当面の問題について話し合うことが出来た。

Sこれからも彼らが訪問して下さることが楽しみです。

Bホーム・テイチャングは受ける方ももちろん、訪問する人にとっても大きな祝福です。もっと多くの人がこの祝福にあづかるように祈ってます。

(ある日の我家より)

ホーム・テイチャー
となつて

村上 完治

(室蘭支部)

私は、一月二十四日、午後六時、長老の職にある、梅津清美兄弟と共に、ホーム・テイチャーとして、第一回目の行動を起しました。訪問する家庭は、去年まで支部長の責任にあつた、川崎英三兄弟の家庭であります。道すがら同僚の梅津兄弟は、緊張している私に、笑顔だけは忘れぬようにと、励ましてくれました。それで幾分落着きを取り戻して、川崎兄弟の家に向いました。目的地に到着し、暖い室のソファに腰を沈めたとき、これから神様の使者として働くのだ、という喜びがありました。最初は世間話しでありましたが、食事が済んでからは、テーブルを囲み、教会の将来について、また、求道者に接する態度についてなど、身近な問題から、福音に関することなどを、靈的な雰囲気の中で話し合いました。私はホーム・テイチャーとして、川崎兄弟の家庭を訪問したのですが、逆に沢山の良いことを教わって来ま

した。主客転倒。とはこのことだなどと感じつつ、川崎兄弟の家庭を後にしました。帰り道、梅津兄弟と反省などしながらこのホーム・ティーチャーの計画が、本当に、必要であることを痛感しました。私はこの教会が、真の教会であること、また、神が真実肉体を有し生きていますことを証詞致します。皆さん、天にいます父は、どんな小さなことでも見逃さず、私たちのなすこと総てを御らんになっていきます。そして、私たちが常に導いて下さいませ。私たち一人一人を愛して下さる父に対し、休んでいられますようか。うかとすこすひとときに夏は過ぎ去り、刈り入れは終るといふことを心にとめて、一生懸命、神の御業に励みましょう。

ホーム・ティーチャー

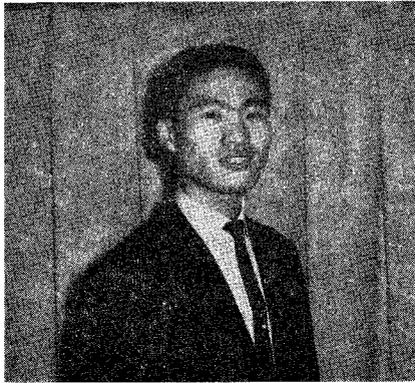
の証詞

樋口博

(小樽支部)

ホーム・ティーチャーとして、丁度一年過ぎた私です。ホーム・ティーチングと云えばほとんどと云って良いほど夜の活動である現況です。私もその、夜行う組です。以前は日曜日の夕方に限られて、屢々訪問しました。最近は日曜日以外の日に訪問しています。訪問先の都合を聞いて、必らず、申し合せて訪問します。あるときは、都合が悪くて、他の同

僚の一人を借り出して、同僚にし、またあるときは都合が悪くて、一人で訪問しなければならぬときも有りました。でもこんなときは、本当に残念な気持ちになります。私は以前にあまり感心出来ない考えを持っていました。それはこうでした。単に報告や記録のためにと言った、本当に悪いホーム・ティーチャーでした。でも幸いにも気が付きまして。考えを変えるように頑張りました。訪問先の家族の人々と親しく成り。また、良く話し合うことにより、家族を良く知り、また福音を分かち合う所であり、このモルモン教会以外では味わうことができない幸福感を味わうこと屢々、時間の過ぎるのたまちのうちにです。家族に対して、チャレンジをしたり、また、逆に多くのことを教えられたり、実に良い経験を与えるこの機会を見のがすことはできません。



確かにこのプログラムは、信仰を強め、証詞を強め、活発な会員を不活発にならないようにお互いにはげまし合い、いっそうの兄弟愛を深める機会であります。このプログラムを用意された神様に心から感謝しています。また、兄弟たちは、いつも喜んでこのプログラムに参加することは、自分の持つ神権を行使するのであって、人類に不死不滅と永遠の生命をもたらすと云う神権の御計画に参加し、協力しているのであります。ホーム・ティーチャーは実に神聖な召しで有ることを心から証詞致します。

ホーム・ティーチャー

の証

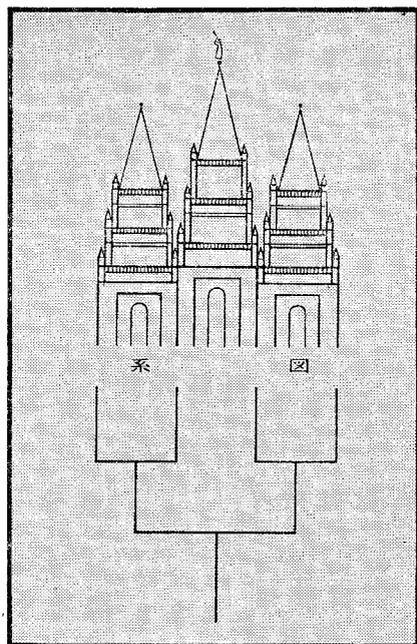
近藤 巨

(旭川支部)

私は自分の信仰生活の中で指導者から良く「行いの無い信仰は死と同じである。」また「人は無知にして救われぬ」と云う言葉をしばしば聞かされました。私はこの十年余の生活の中で、やはり当時のブランチ・ティーチングの力なしで再び教会に出席し喜びを受けることはできなかつただろうと、自分が今ホーム・ティーチャーの仕事をするとき、良く自分の心に聞かせておきます。私は現在、恵まれてある家族に働きかけておりますが、私も同僚もただ一つの心となって現在彼らは何を求めているか。また何を提

供しなければならぬか。また時期は何時か。また結果として彼等に残したものは何か。主としてこれ等の点について配慮しております。ある意味において思うのですが、訪問先に対して自分たちも満足し相手方も満足出来るような内容にならなければこの訪問という歯車は止ってしまいます。二度訪問する勇気を失います。私たちはしばしば表面的な会話態度で接しがちです。相手を不快な感じにしないよう、また、話題を色々他方面へ大きく飛躍しがちであります。例えばプールに飛び込むときのことを考えてみますと、高い処から自分の思う処へ力強く深く入り込むと上へ出るのは案外簡単であります。ところが自分のちよつとした先入感で低い処から飛び込むと水の奥深く入り込むことは不可能であります。ホーム・ティーチングもこのプールの飛び込みと同じであります。但し深く入り込むと言う意味は相手の個人的な境界に入ることではありません。私は最近転居したある一家族の姉妹に対する親近感とその子供たちに対する理解力が増えてきたことに大きな喜びを持ちました。私たちは神の子供たちです。自分の兄弟、姉妹のことを考えない家族員がいるでしょうか。ある夜訪問のあとで彼女は「また、是非来て下さい。お待ちしています。」と帰りの道案内までして下さるような態度には帰りの道、夜空の星を見上げなが

(16頁に続く)



イスラエルの散乱と集合

青木 春美 (横浜支部)



アブラハムは、神から「多いなる国民の父となるであろう」と言われ、カルデヤのウルからカナンに移住した。その子イサクも神を恐れる

築かれた、ソロモンの晩年は国内各地に内乱が起り、南北の戦いがあった。BC九二二年ソロモンが没すると、ソロモンの子レハベアムをたてる南部(ユダ族と

人であった。イサクの子ヤコブは、神からイスラエルという名をもらい、その名はイスラエル民族の名前となった。ヨセフの時代に、十二支族はエジプトに移り住んだ。その後エジプト人の奴隷となり、偉大な予言者モーセによってカナンの地に導き出された。予言者サムエルの時代に国民は王を望み、サウルが任命された。その後ダビデ、ソロモンと続き、ソロモンの時代に巨大な神殿が

ベンジヤミン族)と、ソロモン王の時エジプトに亡命していたヤラバアムをたてる北部(他の十支族)に分れ、イスラエルはユダ王国とイスラエル王国に分裂した。

ヤラバアムの子ナダブは、一年のうちに隊長バアシャに殺され、バアシャはヤラバアムの全族を撃った。その子エラは将校ジムリに殺され、ジムリはバアシャの全家を撃ったが、七日目に隊長オムリに殺された。その子アハブは、シドン人のイゼベルを妻にむかえた、アハムの時代に予言者エライジャは、バアル神崇拜に反対し、神の道をといた。エヒウはエライジャの支持をえてアハブの全家を撃った。その後、エホアハス・ヨアシ、ヤラバアム二世、ゼカリヤと続き、ゼカリヤはシャルムに殺され、シャルムは一ヶ月後メナヘムに殺された。アツシリヤの王チグラート・ピレゼル三世はイスラエルを征服した。メナヘムの子ペカヒヤも殺され、その後ベカもホセアに殺された。アモス・ホセアなどの多くの予言者が出て悔改めを叫んだ。ピレゼル王が死ぬと、ホセアはエジプトと組んでアツシリヤに対して陰謀を企てたが、BC七二一年イスラエルはアツシリヤに滅ぼされ、アツシリヤ帝国の諸地方に送られた。この移動により、イスラエル人(失われた十支族)は完全に歴史の中から姿を消してしまった。

一方、ユダ王国は、レハベアム、アビ

ヤム、アサ、ヨシヤパテ、ヨラムと正統が続いた。ヨラムはアハブとイゼベルの娘アタリヤを妻にした。ヨラムの子アハジヤがBC八四二年に殺された時、アタリヤは夫の全家を撃ち六年間ユダを治めた。しかし、祭司たちがその子ヨアシを連れ出し、ようやく異教の偶像崇拜者アタリヤは殺され、ヨアシが王となりBC八〇〇年まで治めた。その子アコジヤは殺された。ザカリヤ、ヨタム、アハズと続いた。予言者イザヤは悔改めを説いてまわった。アハブは、イスラエルとエジプトの勢力に対し、アツシリヤに保護を頼んだ。イスラエル王国が滅んだ後も独立は保ってはいいたものの、アツシリヤに對し税金を払わなければならなかった。

その子ヒゼキヤはアツシリヤに對し反乱を起したが、鎮圧されてしまった。その間アツシリヤ帝国の勢力は最高頂に達した。マナセ、アモン王はヤーベ神殿のなかで、アツシリアの神々を拜まなければならなかった。ヨアシが王となった時、アツシリアの勢力は衰え、BC六一二年ニネベはバビロニア人によって陥落した。ヨシアは律法書を国民に読んで聞かせた。アツシリヤが退いたので、エジプトがパレスチナに侵入し始めた。ヨシアはエジプトと敵対し、パロ、ネコを撃ったが、その子エホアハズは即位三ヶ月後にネコに捕えられエジプトへ連れて行かれ、そこで没した。ヨシヤの別の子エリヤキムをユダの王とし、エホヤキムと

改名させた。BC六〇五年カルケシンの戦いで、バゼロンがユダの主権者となった。エホヤキムは隸屬三年後バビロン王ネブカドネザルに対し反乱を起した。BC五九八年ネブカドネザルの着前にエホヤキムは死去し、多数の王族、有力市民がバビロニアへ連れて行かれた。エホヤキムの伯父マツタニヤをゼデキヤと改名させ即位させた。ゼデキヤの治世一年にリーハイはエルサレムをたつた。ゼデキヤはエジプト王とくんでバビロンに反乱を起し、BC五八六年バビロンはユダを占拠し、ゼデキヤの目の前で息子たちを殺し、ゼデキヤの目をえぐりとしてバビロンに連れて行つた。ゼデキヤの子ミレクは神に導かれてアメリカ大陸に渡り、後にゼラヘムラの地でニーファイ人と一緒になった。ユダの高官ゲダリアを、ユダの知事とし、政庁をミツパにおいた。ゲダリアは殺され、ユダヤ人虐殺が行われた。エレミヤはBC五八一年エジプトに逃れた。多くのユダヤ人がエジプトに逃れた。BC五九八年からBC五八二年にわたる三回の流刑で、多くの人々が連れていかれた。城壁と宮殿は破壊され、神殿は焼き払われた。エゼキエルもバビロンに連れて行かれた。BC五五〇年頃ユダヤ人の中心は、バビロニアのディアスポラにあった。エホヤキムが移されて三十七年後、バビロニア王エビルメロダクの際に、エホヤキムを獄舎から出し、王宮に住むことを許した。

BC五五〇年ベルシヤ王クロスはメディア人を打ち破りBC五三九年バビロンを手に入れた。ユダヤ人は、帰国を許されたが、少数の者のみが帰った。パレスチナには他の国の人々が定住していた。ゼルバベルが指導者となり神殿が再築され、BC五一五年献堂式が行われたが、ごく小さくて単調であった。ベルシヤの高官であったネヘミヤは、エルサレムに帰りBC四四五年城壁を再築した。その間、サマリヤや他の民族の圧迫が強くなり、半数が武器を手に持ち働きを守つた。ペルシアは帝国を二〇州に分け、ユダヤは第五(シリア、フェニキア)に属した。アラム語は公用語となった。ネヘミヤの仲介によつて、ユダヤは属州サマリヤに從属せず単独のペルシア属州の地位に高められた。エズラはエルサレム訪問を許され、ユダヤ人ヒモーセの五書を誦んだ。その他、マラキヤやヨエル等の予言者が出た。他の土地にユダヤ人共同体が成立され、中心はエジプトナイル河のエレファンチンにあり、もう一つはメソポタミア、ニッブルであった。

アレクサンダーは、ペルシアを征服してギリシヤ、オリエントからインド西部にまたがる国家を創設した。彼の死後、国はエジプト(プトレマイオス)、シリア(セレウコス)、マケドニアの三国に分立した。BC三三三年パレスチナはプトレマイオス一世の掌中に帰した。パレスチナはBC三三三〜BC三〇一年に五度占有者をかえた。BC三〇一年(イブソスの戦)〜BC一九八年まではプトレマイオスの支配下であり、BC一九八年からはセレウコス朝アンティオコス三世の支配下になった。ユダヤ人のアレクサンダーリアへの移住が激しくなり、共同体が総体として市民権をもつていた。プトレマイオス五世時代、翻訳(七十人訳)もエジプト在住のユダヤ人によつてなされた。BC一九九年マケドニアの戦いでローマ人に屈服したが、ローマの勢力がのびるのは後の事である。BC一六七年神殿には、ゼウス、オリンピアの礼拝が導入され、ユダヤの祭儀とユダヤ宗教への固執は死をもつて罰する事とされた。これに対し、ユダヤ人は蜂起し、祭司の家門出のマツタテヤはシリヤの官吏を殺し、自分の子供五人と山にのがれた。三男ユダ(マカベア)は、エルサレムを占領し神殿を清めた。(宮きよめの祭、ハヌツカー)ユダの兄弟ヨナタンとシモンはついにパレスチナの独立を獲得した。これが、ハスモン王朝である。しかし、外部の圧力や内部の争いはたえなかつた。アレクサンダー、センナイウスのふたりの子、ヒルカヌス二世とアストプロス二世の間に争いが起こり、イドマヤ(エドム)の長官、アンティパテルはヒルカヌスに味方し、ついにローマの將軍ポンペイウスに訴えた。ついに、BC六三年ローマ軍はエルサレムに入城し、ここにパレスチナの独立は終つた。ローマ政府は

アンティパテルの子、ヘロデをユダヤの王に任命した。ヘロデは人々の関心を買おうと、ヘロデの神殿を建て、ハスモン王朝の女王マリアンヌと結婚したが、年老い気が狂つた様になり、妻や子供、親類などを殺した。この時に、イエス・キリストはお生まれになった。ヘロデ大王の死後、その子ヘロデが、ユダヤをおさめた。このヘロデがバプテスマのヨハネの首をはねた人である。すべてのユダヤ人はローマ人を憎んだ。

AD六六年、全パレスチナのユダヤ人は、ローマに対し蜂起した。しかし、五月十六日には、三六〇〇人のユダヤ人が虐殺され、エルサレムの丘は死臭にみち、しまいには十字架をつくる木材を切り出すため、あたりの山は禿山に変わった。マツサダには老若男女約四〇〇〇人がたてこもり、三年後までゲリラ活動を続けたが、子供を含めた九〇〇人全員が、刺し違えて死んだ。捕虜のうちには飢えてもローマのパンを食わずと餓死するものが続出した。一三一年に、ラビ・アキバが指導者となり反乱を起したが、無数のユダヤ人が虐殺され、ユダヤ民族は、世界各地に離散した。特に多量ローマに離散した。その後、ローマは、エルサレムを再建し、エイリア・カピトリナと命名し、ヤーベの栄光をうばい神々を飾つた。ユダヤ人はエルサレムに立ち入る事を禁じられ、ユダヤ教は禁教、ことに割礼や安息日を厳禁された。

BC三二五年、キリスト教がローマの国教になると迫害がはげしくなった。第一回の十字軍遠征は、ライン河地方の異教徒討滅を目的とした。ソロモンの寺院には血の川が流れ、火を放たれた異教徒の死体は炎々と夜空をこがした。十字軍は殺戮、略奪、婦女暴行を聖地を荒した異教徒の当然の報いと考えていたのだ。その後、カリフ王国がたてられ、ユダヤ人は自由に自分たちの神を礼拝できた。

しかし、カリフ国が分裂して、キリスト教国の力が強まるや、また迫害が激しくなった。一二一五年ラテラン会議において、ユダヤ人は、外出の際ダビデの星をつけることと決定された。一二九〇年に、パリ、イギリスで、一三〇六年には、フランスで、一三七〇年にはブラツセルで、ユダヤ人追放命が出た。一四二〇年ウィーンでは、ユダヤ人が一人残らず処分されるということが起った。その後、世界各地に、自由思想運動がおこり、一六七年にはフランスで、一八一二年はプロシアで、一八三〇年にはベルギーで、ユダヤ人に市民権を与えた。所が、民族主義の統一につれて、ユダヤ人に対し、民族の裏切者として攻撃が始まった。

一八四〇年ロシアのユダヤ人は総ユダヤ人の五一・一%。一九世紀末二〇世紀にかけて、ロシアの迫害とナチの迫害により、多くのユダヤ人はアメリカへ渡った。

シオニズム(離散したユダヤ人がシオ

ン、故国パレスチナの地に復帰しようとする観念、ないし運動)近代シオニズムの先駆者

1800年	1875年	1939年	1950年
100	100	100	100
76.9	87.5	56.8	25.3
13.4	5.0	6.2	15.5
9.6	4.1	3.7	6.2
0.1	3.3	33.1	52.7
—	0.1	0.2	0.3

数(含む) アカ州アライ・カリ
パを合 アカ諸リ
ッア アリカ
ロシ フリカ
ヨ(アメリ
ア アオ
生 一八八

○年代
ヘスヤレオ・ピンスカーなどは、ユダヤ人が、他の国民と同等になるには、国家をもつこと(パレスチナでなくともよい)である。

ホヴェウエ・シオンを愛する者)等、多くの国体が出て、多くの植民地が、パレスチナにできた。

シオニズムの父 テオドル・ヘルツル(一八六〇年—一九〇四年)シオニズム運動を、パレスチナ中心主義として、実際に発展させた。

アリア(週期的な移民の波)が始まった。第一アリア、一八八一年、ロシアにおけるボグロムの結果、多くの国体が創設された。第二アリア一九〇四年、第一

次世界大戦終了までロシアからの離脱者は大部分が、アメリカへ渡り、少数のみパレスチナへ移った。第二アリアは、将来のユダヤ人国家建設のいしずえとなった。

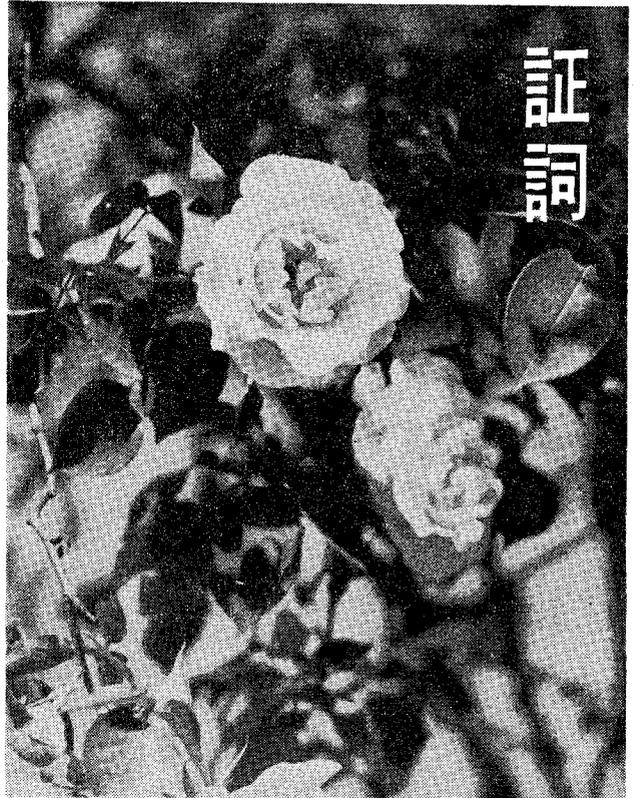
ヒットラーは、ヨーロッパにおけるユダヤ人絶滅を予告した。血液保護法など多くの法律を出した。また、教会堂、礼拝堂、集會堂を焼却し、ユダヤ人全員にダビデの星をつけさせた。ゲッソーに押し込め、一九四〇年頃から強制退去させた。毒ガスによる大量処刑は一九四一年夏、一九四四年秋にアウシュヴィッツ収容所だけでも二五〇万人の犠牲者を毒ガス刑、および、火刑に処して抹殺してしまった。ほか五〇万人が飢えと病気で死亡した。一つの毒ガスの例として、次の文を引用する。貴重品は窓口にあずけ、靴は一足ずつそろえ、入れ歯やメガネもはずし、丸裸になり、女は髪を切られ丸坊主に(その毛は、潜水艦の充填材料などの特殊用途に使う)された。面積二五〇m²、空間四五m³の中に七〇〇人から八〇〇人の物理的最大限度まで押し込んだ。二時間五分そのまま、毒ガスを入れてから三分後全員死亡した。汗と尿にぬれ、便に汚れた死体が投げ出された。約六〇〇万人の人々が、ナチによって殺された。

一九一七年十一月英外相バルファが、有名なバルファ宣言(イギリス政府は、パレスチナにおいて、ユダヤ民族郷土が建設されることに好意をもってのぞむ)が発表された。一九一九年、パレスチナは、イギリスの委任統治国となった。しかし、ユダヤに対するアラブ人の暴動が至る所におきた。ナチから逃れ、アルプスを越え、船でパレスチナに逃げのびてきてイギリスはユダヤ人をパレスチナに入れなかつた。一九四一年十二月、スツルマ号小型老朽船乗船員七六九名が、イスタンブールについていた時、トルコ政府の他の国が受け入れるという条件においてのみ一時仮上陸を認めるといふ敵達に、ユダヤ代表機関は、パレスチナ政府(英)と、かけあつたが無駄で、行く先なく燃料なしで、沖合に出され年越えた一九四二年二月二十四日自沈して果てた。生存者ただ一名。この様な事件がたびたび起つた。ユダヤ人にも武力親衛隊「ハガナー」が起り、イギリスとアラブ双方に対するテロリストの暴行が増大した。一九四七年二月英は、パレスチナ問題を国際連合にゆだねたが、アラブは依然として拒否した。アメリカにおけるユダヤ人たちの働きにより、反英運動が盛んになった。

一八四八年五月、二十五年にわたるイギリスの委任統治期間が満了した。イギリスの引き上げと同時に英兵にかわつてアラブ兵が入ってきた。中はアラブ軍団外はパレスチナ在住アラブ人の保護を名目に六つの国の軍隊とカウークシ解放軍

(12頁上段に続く)

証詞



△専任宣教師▽

高部しげ子

兄弟、姉妹こんにちは、身も心もかぜをひいてしまいそうな寒い日が続いていますが、汝ら何よりもまず、外とうのごとく、愛のきずなをもて身にまとうべし……みことばの中で元気にあたたかい気持ちで毎日をお過ごしのことと思います。

私は宣教師として召されてもう二カ月を迎えようとしています。毎日毎日がとても短く感じられます。一日一日をほんとうに感謝して過ごしています。

もう何人ぐらいでしょう。街頭で教会で、ずいぶんたくさんの方と話ししました。私たちの呼びかけに對しさまざまな反応が返ってきます。一人一人の靈の違いを感ずるとともに、教会に入る前の自分を考えあわせ、いまさらながら信仰を持ち得たことに感謝の気持ちでいっぱいです。神さまの恵みなしに、決して信仰を持つことはできなかつたと、伝える立場になつたいまよくわかります。小さなほんやりした私の信仰を見捨てられるこ

となく、今日まで教会の中にとどまることができたことに對して、神さまの寛大な愛に感謝の気持ちでいっぱいです。

召しをいただいたとき、知識の浅い、器の小さな私が、どのように人に教えることができるのかしらととても不安でした。けれども聖典の中の先人たちの記録から伝道についてよく学ぶことができました。これらの人々の信仰と行ないは私に勇気を与えます。

「みたま」を受けることなく教えるはならないとはつきり教えられています。また実際にみたまを受けないで私はだれをも導くことはできません。



。汝らその身を聖くせよ。しからば能力をさすけられ、かくして誠にわが語りしごとく教うるを得ん。

わが語りしごとく……ほんとうにそのように人に接し、伝えたいといつも願っています。いつも御靈の導きを受け、御靈とともに伝道できるように祈り、柔和でけんそんな心を持ちたいと願っています。

す。
けれども私がどんなに一生懸命伝道したとしてもそこに愛がなければ何の価値もないものです。

。たとい私が御使いたちの言葉を語っても、もし愛がなければ、私はやかましい鐘やさわがしい鏡鉢と同じである。山を移すほどの信仰があってももし愛がなければ私は無に等しい。伝道の期間を通じてこのことばが確かであるということがよくわかります。

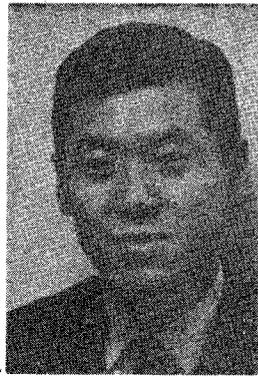
信仰はやがてすべてのものが完全な知識として与えられます。けれども愛は永遠です。神さまは私たちを豊かに愛してください。私は私の愛の気持ちが小さな小さなものであることをよく知っています。けれどもほんとうに神の愛を持ちたいと心から願っています。もっともっと靈を高めて神さまに近づきたいと思えます。そして私の心を愛に満たせ、神の愛をあらわすことができれば、そしてその愛で人を包むことができれば、どんなにすばらしいだろうと思えます。また多くの人がそのような愛を持ったらどんなにすばらしいでしょう。

この末の日にあって多くの人が心をやわらげ、神さまのほうに心を向けることができるように、そしてその恵みを豊かに感じ御名をあがめることができるように心から願ひ、祈っています。

兄弟、姉妹、私はほんとうに一人一人の方が私の兄弟、姉妹であることをよく

知っています。みことばにしっかりとつかまって歩くことができるように、お互いに助け合ひましょう。
すべてをキリストの御名によつていたしました。アーメン

内山 晴行



要する兄弟姉妹の皆様今日は、神様の恵まれた地、新しく開設された北九州支部において伝道する機会が与えられましたことを心から感謝しています。多くの兄弟姉妹の暖い愛と、尊い犠牲に依り伝道することが出来ますので私の心は喜びで一杯です。宣教師に召されてから早くも八ヶ月目になろうとしています。讃美歌の四十四番に、時を惜しみて、があります。私が私たちは一日、一時間、一分、今ある時間を有効に神の御業に忠実に励まなければなりません。現世は、人間が神に逢う用意をしなくてはならぬ時期である。現世の生涯は、人間が各々働きを遂行せねばならぬ時期である。私が前に

あなたたちに話したように、あなたたちに証を立た人々は非常に多いので、私はあなたたちがこの世を去るときまで悔改めを引き延ばさないようにねんごろにすめる。永遠の来世に行く準備ができるように私たちに与えられている現世の生涯の光陰を有益に用いなければならぬ、後から夜のような暗やみの生涯がやつてきてそこへ入ったら何の働きもできるはずがない。(アルマ三四・三二―三三)

伝道に出て自分の証を強め、進歩する機会が与えられ、神の祝福があります。神のプログラムに参加することにより神から祝福を受けることは確かであります。どんな小さな責任、仕事でもいいのです。神から祝福を受けたいと望むなら与えられた責任、仕事を忠実に果さなければなりません。あなたがたが幸福であると感じるときはいつですか？ 私が幸福と感じるときは教会の福音を教えているとき、また求道者の一人々々に神のこゝと、イエス・キリストのこと、予言者ジョセフ・スミスのことについて語り、証をするとき本当に心の中に安らぎをおぼえ幸福なときです。そのときには他の悪い考えが出てこないからです。常に私たちが心の中から、頭の中で良い考えを出し、持たなければなりません。そうすればいつも幸福です。イエス・キリストの福音が再びこの地上に予言者ジョセフ・スミスを通して回復されたことに依り現世において再びイエス・キリストの福音

を知ることができ、真実の教会に出席して、永遠の生命を得るために準備することが出来ます。人類が現世にあるのは幸福を得るためである。幸福すなわち永遠の生命を得ることであります。多くの人々が、この教え、教会を知りません。そして私たちは早く宣べ伝えなければなりません。

そは、この世にはなお欺かんと待伏をする人間の狡猾なる巧智に眼くらみて、真理のある所を知らざるが故にただ真理に遠ざかる者、あらゆる教派、党派、宗派の中に多ければなり。(教義と聖約一四・一二) この北九州の地においても百万の人口があり、色々な宗教者がおります。私たちは真実の福音をこの人たちに聞き入れても、入れなくても、この福音について一度は知らせなければなりません。伝道の仕事はやさしくはありません。寒いときなどは本当に苦しいです。そんなときに、一軒も紹介できないときはなおさらであり、サタンの力の強さを感じさせられます。しかし私たちは目的にむかつて進まなければなりません。目的を勝ち取るまで忠実でなければなりません。

かように神の命令はこれをふみ行わなければならぬことがわかる。もしも世の人々が神の命令を守るならば、神はまことにこれを養いこれを強くし、また人に命じたもうたことをなし遂げることが出来る方法を与えよう。(ニ一フアイ

第一書一七・三

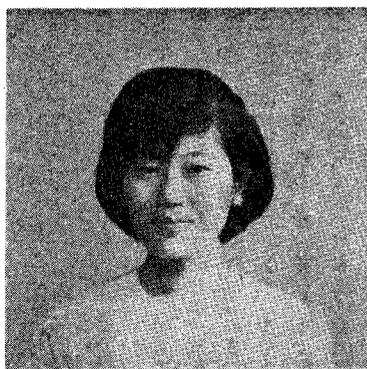
神様は私たちが命令を守るならば祝福を下さいます。そして、いつも神の御霊とともにすむことができます。それに常に、善悪を見かけることができず。これをもって、汝らは今の世の人々に悔改めを叫ぶために召さるるなり。而して汝らもし生涯今の世の人々に向いて悔改めを叫ぶことに力を尽し、唯一人の人なりともわれに導かば、わが御父の国において彼と共に汝らの悦び如何ばかりぞや。(教義と聖約一八・一四―一五)

北九州支部もまだ少ないですが、これからの私たちの働きにより、会員の助け



により、小より大となると確信していません。私を唯一の教会へ導いて下さった宣教師の方に、また私を育てて下さいました支部の兄弟、姉妹に、そして今福音を宣べ伝えることができませんの感謝し、すべてをイエス・キリストの御名により証します。アーメン

久保 恭子



もう二月というのに、美しい空と穏かい日差し、そして恵まれた環境の中で、すばらしい日々を送れていますこと、とても感謝しています。しかし信じたくない者をどうして呼び求める事があろうか、聞いたことのない者をどうして信じるかがあるか、宣べ伝える者がいなくてはどうして聞くかがあるか、つかわれなくてはどうして宣べ伝えることがあろうか「ああ麗しいかな、良きおとづれを告げる者の足は」。(ローマ人への手紙一〇・一四―一五)

六年前のちょうど今頃、学年末考査を

終えて教会を訪れた時、始めてのことばかりに驚きながらも、宣教師はじめ支部長さん、兄弟姉妹の愛の中にあつて、本当にすばらしい日々でした。そしてバプテスマについて伺った時、唯受けたいと望みました。何も知らなかったのに何日間か、毎晩毎晩両親に頼みました。今思うと何をどのように、訴えたのか全然おぼえていませんが、とにかくその許可をもらい、バプテスマを受けた日の、喜びと幸福な気持を忘れることは出来ません。福音を知らされて以来、沢山のすばらしい経験、また幾つかの苦い経験もありました。学校を卒業してはじめて社会に出た時、お給料をいただいたら何をしようかしら、何に使えばいいのかしらと思っているうちに、六ヶ月目にパートタイムに召されどんなにかうれしくまた有頂天になっていたことと思います。でもその時、私のお仕事が土曜日五時までであることに大きな障害を見出し、そのことについて支部長さんや同僚は本当に真剣に考え祈って下さいました。そして課長に相談したときに、その嘆願書を出す様に言われ、一年間だけ土曜日の午後に私のお仕事が終れば帰らせて頂きたい旨を書き、課長その他の人々の許可をいただいで大喜びしているときに、社長から呼び出され「君が男なら……」ではじまり、結局社内には半どん運動が非常に強く起きているために、君の例外を認めることが出来ないと言われ、「会社か、

教会か、どちらかを選ぶよう」言われました。そのことを聞いたとき、私の心の中には大きな犠牲を払えるという高慢な喜びに満ちていたので。そして胸をはって「教会を選びます。」と答えたことをおぼえています。今まで一度もそのこととは後悔していません。唯そのときの高慢な心が残念ですが。

その後、教会でも家庭でも恵まれ、ほとんど何の不自由も知らずに過ぎて来た生活の中にあつて、福音を知れば知る程喜びと証詞が増すにつれて、私のように神様も神様の教えも何も知らなかった者に、根気よく忍耐と愛でもって導いて下さった宣教師に、そして教会へ連れて来て下さったお友だちに感謝の気持も大きくなりました。そして同じように何も御存知ない方々に、また求めていらつしやる方々に伝えてあげたい気持も増すにつれて、一生懸命準備しました。でも自からときを決め待ち望むときには期待するころとは何も起らず、十二月の中頃から終りにかけてだろうと、またときを決めているときに、十二月にはいつてすぐ召しを頂き、その日からわずか三日で伝道本部に入るように告げられたときには少なからずあわてました。でも沢山のお友だち会社の上役の方々の、理解と励まし、そして兄弟姉妹、家族の愛と助けにより、再び会社をやめ今度は両親のもとをはなれてこの地にやってきました。

今度こそ謙遜な、神様に喜んで頂く

る僕になりたいと、心から願っています。毎日の生活のすべての事柄から、神様は本当に私たち一人一人を愛して下さって、最も良いときに最も良い方法で導いて下さいますこと、心から証詞いたします。その愛故に神はイエス様を遣わして下さり、また末の時代に私たち一人一人のためにジョセフ・スミスを通して、真の神権と教会を回復して下さったことを心から感謝しています。恵まれこの最後の神権時代に生を受け、福音を知り生活出来ていますことは、何にもまして大きな特権であり、今のときに教えを宣べするためにこの地に遣わされたことを心より感謝しています。すばらしい同僚との、楽しい毎日の伝道生活、この地の兄弟姉妹のあたたかい協力、沢山の求道者の方々の愛、そして西宮の兄弟姉妹からの励ましは、この二ヶ月たらずの生活の中にあつて約五〇通の便りとして私のもとに届けられ、何と感謝していいのかわらないくらいです。そして愛する両親からの便りには、いつも家族の皆の分も神様に仕えて下さいと励ましてくれるのです。

主が一人の御方であり、主の教会も唯一つであることを心から証詞いたします。そして真の福音の中でこのすばらしい生活を送れていますことを、心から感謝しています。

すべてをイエス・キリストの御名によつて証詞いたしました。アーメン
(東京北支部で伝道中)

地方部 宣教師

浜口 和子

(旭川支部)



今の私の心の中には沢山のなやみがあります。全部が自分自身犯した罪に対する大きな後悔です。神様から豊かな祝福を賜わっているにもかかわらず、次から次へと犯す罪に対して私は、もう宣教師として召されていることは出来ない、と思いついていたある日、神様を通して祝福を授かることが出来ました。私の頭の上に置かれた手の重みが、そして神権者の一ツ一ツの言葉が私の心の中に響き渡りました。貴方は聖なる召に対して心から感謝の気持を持って常に神様に対して、祈り求めなさい。またいつも聖霊の助けを祈り求めなさい。私は涙が出て来てどうしようもありませんでした。私はほんとうに、多くのことに心をわずらわ

していたこと、自分に与えられている大きな祝福に対して、感謝の気持を忘れかけていたことに気が付くことが出来ました。その日から私は心の中に決心をしました。私のほんとうに弱い信仰をあわてずに一歩一歩強いものにしてしよう。神様が生きてましまし、またジョセフ・スミスは真の教会を回復した予言者であり、またイエス・キリストは全人類の救い主であり、現在私たちがこの世に住んでいる目的は、神様に合う用意をする為でありすべての人が福音のおきてと儀式を守ることに、永遠の生命を得ることが出来る、と云うすばらしい神様の御計画を一人でも多くの人たちにお知らせしたいと。

第一の手紙、第十三章一―三節)
私はこの聖句を胸にいだいて、活潑な沢田姉妹と共に伝道出来ますことを、心から感謝しております。また次の聖句が私の経験により、たしかなものでありますことを証詞致します。
それは、すべての事己むを得ざれば為さざる者は怠惰なり、賢き僕にあらざればなり。これを以て彼は良き報いを受くことなし。
すべてイエス・キリストの御名により申し上げました。アーメン

沢田 扶美子

(旭川支部)



私はバプテマスを受けてから、続けて神様の教会へこれまでも心から感謝しています。今まで兄弟、姉妹達は、私に与えられた責任がよく果されるように助け導いて下さり、又良い模範を示して下さいましたので、だんだん受けた責任に対して喜んで働けるようになりました。家族に対して、友だちに対し、愛の

ある助け手となるように精神的にも成長させて下さいました。神様の愛は大きく、もっと靈的に成長出来るように、宣教師という祝福をも与えて下さいました。支部長さんからその事を聞いてから少しの間、私のような祝福を受けるにふさわしくないと考え、迷いました。その様な状態の時、その迷いの気持を取り払うためにお祈りしました。その翌朝私の耳もとで、何か歌が聞こえました。何の歌か解りませんが、だんだんとはっきり聞えて来ました。それは、前の日に経験のある姉妹から、いろいろと指導を受けるために集会を開いたときに唱った歌でした。そのときから私の心の中に喜びと、主の誠命を守ろうという強い決心が起りました。今、浜口姉妹と共に、私たちの受けた恵みを、一人でも多くの人に分け与えたいという気持で働いております。私はその讃美歌をときどき聞きます。弱くなるときに。
なすべきわざを われは持つ
己れのために 人のため
益なき思いを やめて目的に
日々励みてなさん 暮れぬうち
陽のしずむ前に為せ
日々励みて為せ暮れぬうち
神権を通して与えられる、多くの召しは私たちモルモンにとってなすべき業です。いつも愛と喜びを持ち神様の愛する沢山の人たちに、神様の教えを伝えたいと思えます。

神様は確かに生きていらっしゃることを、イエス・キリストの御名により証詞いたします。アーメン

伊藤 盈子

(小樽支部)



私は恵まれてまして地方部宣教師として召されたとき大きな喜びと同時に不安がありました。それは私が本当に宣教師としての資格があるのだろうか、またもし私の気の付かない状態で求道者に対して悪い状態であつたらどうしようという不安でした。しかし召されてから約一ヶ月神様は本当に私を助けて下さいました。聖句の中にこのような言葉があります。

『わが子よつぶやくなかれかくの如く汝を待遇したるには深き智恵われにあればなり。見よ汝いまだ悟らず、汝はひたすらにわれに願ひしときはこれを与えらるるならんと思えり。されど見よわれ汝

に告ぐ、汝心の中によく思い計り、その後願うこともし正しからは汝願わざるべからず。願うこと正しからばそのときわれ汝の心を内に燃やさん。これによりて汝にその正しきを感じしむ、されどもし願うところ正しからずば、かかる感なくして汝の心は次第に鈍くなりそはついに悪の悪たるを忘れしむるに至らん。』

私たち人間は本当に弱く利己的に出来ています。それに気の付かない状態である人がいかに沢山いることでしよう。私はその気の付かない状態「汝の心は次第に鈍くなりそはついに悪の悪たるを忘れしむるに至らん」というこのことは人間にとつてもっとも恐ろしい状態だと思えます。私はバプテスマを受けてから約三年になりますが、今までの道が決つて真直ではないこともありましたが、ただ利己的な目先のことにのみ気を取られ本当に遠回りしているのに気が付きます。私は少しづつでも神様の御言葉について学んで行くときそれらが本当に私たちの生活と深いつながりが有ること。また福音は私たちにとって本当に大切なものであることが良くわかります。私は宣教師としての資格等を言うより本当に正しい愛の心を持ってそして勇気を出して努力するるとき、神様は大きな力をもって私たちにどのように進むべきかをおしえて下さいます。求道者と話しているとき私は自分自身の道をも見つけ出していると同時に、この教会がジョセフ・スミスを通して

て回復された、真の教会であること、また私たちに真の真理を与えて下さること証詞することができます。

菊池 祐子

(札幌支部)



愛する兄弟姉妹今日は、美しい緑の木、草、温ましい大地全てが、真白い雪に包まれてしまいました。何と美しい大自然でしょう。このようなすばらしい、神様に祝福された土地に生を受け、今こうして数々の祝福の中に、地方部宣教師として働く機会がありますことを、心より感謝致しています。私が働いておりまして特に強く感じますことは、モルモンであることの喜びに満されるときが度々あるということです。冬の寒さが痛い程に感じられる中を、また吹雪の中を神様を知ろうとして、頬を赤くし、白い息をハアハアいって、玄関に求道者の方々が

入って来て下さるとき、遠く離れていた

兄弟姉妹に再会した喜びにも似た強い愛を感じることも、その一つであります。確かにこれをお読になつていらつしやいます兄弟姉妹全てが、神様と共に住んでおりました。そして現世において、再び福音を聞く機会に恵まれました。何とそれはすばらしい祝福でしょうか。

私は数々の回復された神権の下に働くときに、ジョセフ・スミスが年若くして教会を設立するように神様に召されたときのことを思い出します。ジョセフ・スミスのこのすばらしい経験の言葉一つ一つが『実に神が生き給う』という証しを私に与えて下さいます。私は確かに、この教会が、初期の教会と同じ組織であり唯一の真の教会であることを証し致します。予言者ジョセフ・スミスはこうおっしゃられました。『我は正直、真実、貞潔、慈善、高德なるべきこと及び全ての人に善を行うべきことを信ず……。もし何にても徳高きこと、あるいは褒むべきことあらば、我はこれを尋ね求むる者なり』私はこの聖句の通り、真理に耳を傾け、たゆまぬ前進を続けているモルモンとして、共に努力し、私たちの持てる才能と光を、あらゆる場所において、使用する機会がありますことを心より感謝致しております。

『この故に汝ら善の種をまかば、その報として善の実を取り入るべし』開拓当時のモルモンは御存知の通り、沢山の迫害に会つて参りました。彼らは苦しいと

きにあっても私たち子孫のために善き種をまいて下さり、そして私たちは先祖も取入れたであろう善き実を、現在も尚取入れております。神が祝福しているであろう。このすばらしい日本に神殿が建ち学校が、偉大な福祉計画が、尽ることない善き実をすべての兄弟姉妹たちが取り入れ、愛に満ち満ちた永遠の生活を、なすことができますように、私たちの小さな力を働かそうではありませんか。私は神様が、真に生きていらっしやることを心より皆様方の前に証しいたします。

小池 利子

(札幌支部)



私がこの教会に改宗しまして六度目の新春を、迎えております。そして只今、地方部宣教師の責任を戴いていますことを嬉しく思っております。この責任を戴くまで多くのことを体験出来ましたことも感謝しております。この六年という間は私は、人を愛しました、憎むことも知り

ました。また悲しむときも、苦しむときもございました。教会での人間関係がつまらなくなり、不活発になったときもございました。しかし教会以外において、何か得ることが出来たかといえば、何も得ることはできず、ただ虚しさや寂しさが私の心にあるだけでした。また教会へ戻ってきたものの、私の心は大海の、波間を漂っている小舟のようでした。そんな私を、どうにかつなぎ止めていたものはマタイによる福音書一三章の種まきの譬話でした。その聖句が頭から離れず、自分はいばらに落ちたあるいは、土の薄い石地に落ちた種ではないだろうかと思っております。そしてそのようになりたくないと考えもしました。またもう一つの助けは、兄弟姉妹の暖かい愛情でした。彼らとは、私が改宗して一年目頃から自然に出来た若い人々の集りでした。私たちは夜遅くまで、愛について、信仰について、人生について語り合いました。私は自分を十分に生かすことができるのは教会以外にないと、気づいておりました。しかし私はどんなことが起きても、ゆれ動くことのない信仰を持ちたいと、望んでいました。そして現在名古屋で伝道中の林姉妹が旅立たれる前に、証詞されたその確信の強さに私の心はあこがれ、私も彼女の持つ確信を掴みたいと望みました。私は何が正しく真理なのも知っておりませんでした。しかしガラス越しに有る食物をただ見ているだけで、その

味を知ることが出来ないと同じように、ただ見て聞くだけではその心髄と云うものを、知ることはできないのではないだろうかと考えました。やはり食べなければ、その美味しさは知ることはできないのです。私はその実を食べてみようという決心致しました。そして今、私はその味を楽しんでおります。私がこの素晴らしい召しを、戴いている今もやはり迷うことも苦しいことも悲しいこともございません。しかし私は知っているのです。私が現在もそして過去においての悲しみ苦しみは、本当に小さなものにすぎなかったことを……。

私たちはイエスの犠牲を考えると、どんな苦しみ、悲しみにも打ち勝つことができるのではないのでしょうか。何故ならイエスの苦しみ、悲しみに勝るものはないからです。私は六年目にして、真理の道の階段を上り始めたところでございます。これから踏み外さぬように一歩一歩上って行きたいと思っております。

神は愛なり、と申します。私はこのことを強く証し致します。すべてをイエス・キリストのみ名によつて。アーメン

波津 幸子

(札幌支部)



大好きなアイスクリームを手にし、今見てきたばかりの素晴らしい映画のことを、思い廻らし、とても満ち足りた気持ちで、店のドアを押すと、凄まじい雪まじりの突風が、私たちを今し方出て来たばかりの店に、再び押し入れてしまいました。そしてもう一度外に出ることを、ためらいながらも、仕方無しに、コートの手立て、帽子を整え、これから戦地にむかう勇ましい兵士気取りで店を飛び出しました。恐ろしい音をたてながら風は私たちの行くところに立ちほだかり、正月用の松飾りは、人々の足に踏つけられ道の上で無惨な姿を見せ、雪は容赦無く私の顔に吹きつけ、その温もりで、解けた雪だるまのような惨めな気持ちに、なってしまうました。それから急に頭の上が涼しくなっているのに気付き手をやってみると、勇ましい兵士が持っていた

はずの、鉄かぶとが見当りません。あわてて今来た方を振り返っても、そこには無情で心憎いばかりの風と雪だけ。その日は本当に惨めな気持で重い足を引き摺りながら、家に帰りました。このようなことは、どこにでも転がっている石ころのように、多くの人々が経験していることです。そして私たちの人生は、このよう小さな、悲しみ、苦しみ、また喜びとかによつて、編上げられるものでしょう。ある姉妹が、私たちに一人の友だちを紹介して下さいました。彼女は若さ似合わずどこかのおばさんみたいな口調で淡々と喋り出したので奇妙さと可笑しさが同時に、危うく吹き出してしまふところでしたが、次第に彼女の熱に動かされ、私はとても興味をおぼえました。そして彼女に「教会について、また神様についてどう思いますか」と尋ねてみますと、例の口調で「神様についてどう思ふかたつて、わたし神様のこと聞いたことないものね。宗教を持つことはいいことだし、わたしも、もちたいけれど神様って、どんなものかわからないものね、聞いたことないんだもの、」

聞いたことがないんだもの、この言葉が私の胸に打ちつけ、そしてそれがだんだんと輪をつくるように、聞いたことがないんだもの、聞いたことがないんだもの、自分の頭の中で、幾度も繰返してみました。そしてああこれなんだ、聞いたことがないものを、どうして知ること

が出来ようか、伝えるものがないくて、どうして聞くことが出来るようか、ああ、これなんだ、

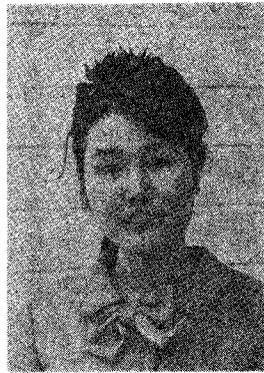
どんなに多くの人が乾いたのどに、水を求めていることでしょう。どんなに多くの人々が寒さに震えながら、火をまつていることでしょう。私は興奮のあまり足は地から離れ今にも空へと飛びたつ心を、押えるのは非常な努力がいりました。私はこの福音が大好きです。そして教会が神様が大好きです。そして全ての人々の人生が信仰というもので、編上げられるなら、本当に素晴らしいです。またそうならなければならぬはずで。神様と、イエス・キリストが真に生きておられ、ジョセフ・スミスの見た経験、心から感謝し、この教会が神様の教会であることを、最高の誇りと、感謝をもって心から、証詞いたします。

田辺志津子

(札幌支部)

愛する兄弟、姉妹、こんにちは、恵まれて、伝道する機会がありますことを感謝致します。神様の御言葉を聞くことと集って来る人々と共に学ぶときに、福音は確かに生活の源であると言うことが、よりはっきり理解することが出来ます。思えば三年十カ月前一人の姉妹によつてこの教会を知ることが出来ました。十六才のときでした。その頃の私は非常に反発

して、紹介して下さいた姉妹を困ませたことを覚えています。ですが宣教師の聖霊に満ちた言葉は、私の反発で押し通すより強力でした。又聖餐会での兄弟姉妹の力強い主の証詞を聞くたびに、謙遜にならなければと思い、その気持が私の心の中に強い重いおもりとして残り、バプテスマを受け、聖霊の賜物を受けると、より神様に感謝でいっぱいになりました。本当に私を紹介して下さいた姉妹に心より感謝したいと思います。私が宣教師になるとき一つの心配があ

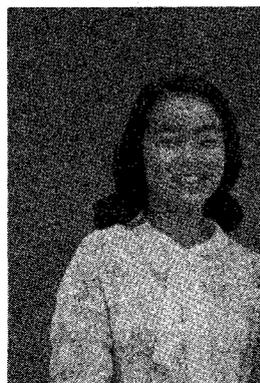


りました。それは、私が働いている会社が、忙がしく、扶助協会にも集えないくらいいつも残業続きでしたので、もし宣教師の召しがきたらどうして仕事を片づけようかと一人気を使つていました。が思い切つて受けてみますと、会社の仕事が非常にほかどり残業ゼロになることが出来ました。これは神様の祝福であると私ははっきり知ることが出来ます。会社の人もびっくりしていますが、私はこのことがはっきりわかっていますので何も

言うことがありません。またこのように会社においても、家庭においても、教会においても一つの目的に努力すれば神様は大きな祝福と導きを与えて下さいます。また聖霊の働きに私は心より感謝すると共に、聖霊は本当に神とイエス・キリストを証詞する御方であることを証詞致します。確かに神は生きていらっしゃる。ジョセフ・スミスは予言者でイエス・キリスト教会の回復の源で、四大聖典は神様の御心になつた書物であることを心より証詞致します。確かに神様は神の御業を行うときに必要な権能であることを証詞致します。最後に私はテモテ第二の手紙二章一五節の言葉を伝えたいと思います。

「あなたは真理の言葉を正しく教え恥じるところのない錬達した働き人になつて神に自分をささげるように努めはげみなさい」この言葉は私の召しを遂行するとき、また他の神様の御業を行う兄弟姉妹の気持を良く表わして下さいる聖句です。本当にこの聖句に感謝致します。すべて御子イエス・キリストの御名により証詞しました。アーメン

細川 恂子
(東京東支部)



まだ私が小学校の頃、学校から帰り、友と暗くなるまで遊んだのが、カトリック教会のお庭でした。あの厳かな雰囲気を持つ礼拝堂は幼い私にも何か心打たれるものを感じていました。イタリア人の神父様からカトリックの教えを学び、信者になろうと考えていた私が、友の紹介でモルモン教会(当時の西支部)を知ったのは高校三年生の春でした。始めて兄弟姉妹の力強い握手には驚いてしまいました。宣教師の方と家庭集会を何回か持つうちに、ジョセフ・スミスが神にお逢いになったことを知らされ理解することができず、途中でぬけだし、宣教師の方をこまらせてしまったことを覚えています。二人の宣教師の方から、謙遜になって祈ることの大切なことを教えていただき、兄弟姉妹の強い励ましによって、私はモルモン教会の教えを素直に信じることができ、一九六三年六月十六日、とても空の美しい、木々が緑の色を濃くした

えていた爽やかな日に、私は無事バプテスマを受けました。その時の私の身も心も喜びで踊っていました。

兄弟姉妹に見守られながら二年位過ぎた、ある日「細川姉妹地方部宣教師になって下さいませか。」と支部長会の方から面接を受けた時には、その責任の重大さる困惑してしまつた私でした。でもコース姉妹、大川姉妹という二人の宣教師の方から得た、この喜びを私も多くの人に伝えたい気持ち一杯でした。教義の点において、信仰の点においてヨチヨチ歩きの幼児のような私でしたが、すべてを神様に委ねて、お受けいたしました。

教会について何も知らない人に神の教えを伝えることは、とても大変なことでした。スライドを持つての家庭訪問、両親ほど年の違う人に福音をのべ伝えたい時、暗記したばかりのレッスンプランを一生懸命教えているとき、ただ無我夢中でした。求道者の緊張していた顔から笑顔が見られたとき、その人の上に、家族の方々の上に神の限らない祝福があり、教会の教えを理解して欲しい気持ち一杯でした。寒い冬の夜、同僚と共に小岩の町でパンフレット配りをしていいたとき、あまりの寒さにゆで卵を二つ買いコートのポケットに入れ、その暖さで頑張ったこともありました。

家庭集会するとき、自分の心が靈に満たされていると感じることもでき、また約束して待ってもこない求道者を必配

したり、求道者の方から相談を受け、一緒に考えたり、悩んだり、でも伝道のお仕事をされていて神様がいつも一緒にいて下さることをはつきりと感じる事ができました。そして神の愛の偉大さに心をうばわれ、そのすばらしさに向つて全身全霊を打ち込んだような気がいたします。そして宣教師をした経験が、いまでも私の心をはつきりと支えていて下さいませ。

昔求道者であつた姉妹がモルモンの兄弟と結婚をし共に教会に集っている姿、中学生になつた甥が最近教会に出席するようになったこと、私が昔、アメリカ人の二人の宣教師から蒔かれた福音の種が伝道を通して私の心の中に大きく実を結ぶことができました。これからも神様の戒命に忠実に従つて、胸を張つて多くの人々に模範を示していかなければならぬと思つております。いまなお弱くなつたり、また時には強くなつたり安定性のない信仰ですが、うさぎとカメさんのお話のカメさんのように定められた目標に向つて、大地にしっかりと足を踏みしめて一歩一歩、これからの信仰生活を歩んでいきたいと思つています。宣教師が終つてからすぐ地方部MIA書記のお仕事をいただき、良い指導者のもとで神様のお仕事ができますことも嬉しく思つています。

MIAのお仕事にもだいぶなれ、MIA

Aのために頑張らなくてはと思つています。色々な支部のMIAを訪問し、兄弟姉妹が熱心に神様のために働いている姿を見て自分自身とても勇気づけられます。

若いときから教会の福音を学び、生きる目的をはつきり知ることができ、私たちの命が現在だけでなく永遠であるというところ、そのために多くの戒命を守る大切さ、福音の実践の大切さを数えていただいたことは他のいかなるものにもまして価値あることでした。教会にきて良い兄弟に逢うことができ、今はモルモンの姉妹として神様が与えて下さつた輝かしい未来に向つて、多くの希望をもつています。これから先も多くの試練に出会うことでしょう。聖書の詩編にあるように、
。たといわたしは死の蔭の谷を歩くとも
わざわいを恐れませぬ
あなたがわたしと共にあられるからで
す。

コース姉妹、大川姉妹から受けた末日聖徒イエス・キリスト教会の福音は私に多くの幸福をもたらして下さいました。そしてその福音の御教えは、私の心にもまなほ美しい花を咲かせて下さっています。すべてをイエス・キリストの御名を通して証詞いたしました。アーメン

遠藤 幸
(横浜支部)



残された日々を悔いのないように、素晴らしい生きた福音を一人でも多くの人々にまた必要としている人々に述べたようにガンバリます。

証詞することにより、なお一層自分の心が強くなることにはつきりわかります。地方部宣教師に召されもう十ヶ月も過ぎましたが、その間私にも恵まれて沢山の祝福があったことをいつも感謝して

います。数々の家庭集会での思い出は決して忘れることが出きないでしょう。その中でも初めて伝道した平野姉妹が、私の結婚式の前日にバプテスマを受けられたことは自分のこと以上に感激でした。

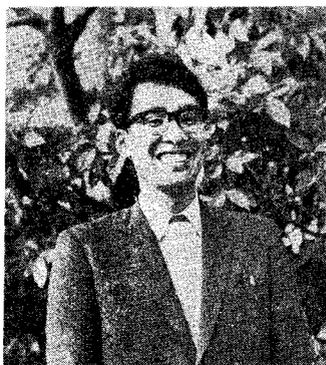
伝道と家庭とをやりくりして務めて来ましたが、ときどき自分の環境にあまえてしまい、今井兄弟にはいつもご心配ばかりかけたことを深く反省しております。そんな私をいつもはげまして下さった、素晴らしい同僚の齋藤トメ子姉妹には、特別に感謝しています。姉妹の力づけがなかったらとくにやめていたかも知れません。また多くの兄弟姉妹そして主人の心からの協力にも感謝しています。あと

残された日々を悔いのないように、素晴らしい生きた福音を一人でも多くの人々にまた必要としている人々に述べたようにガンバリます。

若い時代にほんの短い時間だったけれども、伝道するチャンスがあったことに本当に満足しています。けれど今は私たちの子供たちがやがて大きくなって世界へ伝道に出かける日を楽しみにしています。更にはその子たちが私たちのもとを離れてしまったあと、再び主人と共に伝道に出られたらどんなに幸せだろうかという夢みえています。きつとそうなることを信じています。

神はまことに生きてましますことを、また、ジョセフ・スミスがまことにこの教会を回復したことを心から証詞致します。すべてを主イエス・キリスト様の御名によって、致しました。アーメン

池田 茂美
(名古屋支部)



全国の兄弟姉妹今日は、私の証話をみなさんに話す機会が与えられます事を心から感謝しています。地方部宣教師の召しを伝道部長よりいただいたのは今から一年少し前でした。その時のうれしきは筆舌に尽したいものでした。私は前に宣教師と一緒に伝道の手助けをした経験はありましたが、今度は自分が一人だちして伝道が出来るんだと思うと、うれしきで一杯でした。一生懸命やるぞという

気持ちと神様の使命という事を強く心に感じました。しかし私の仕事は輸入品の重量の立会で毎日働く場所が変わり、きわめて不規則な時間に仕事が終了して、求道者との約束の時間に教会へ行けるかどうかとても心配でした。近いうちに配置換えがあるので、その為神様に地方部宣教師としてよく働くことの出来る地位に変わるように毎日祈っております。所が配置換えによって輸出の仕事に変わり、幸運にも私は会社の中でもっともひまな部所で務めることになりました。その上月末の二日程を除いては毎日定時に帰れるようになれました。その時ニーフアイの言葉「私は主が命じたもうたことをいって行く。私は主が命じたもうたことには人がそれを為しとげるために、前以ってある方法が備えてあり、それでなくては、主は何の命令も人に下したまわなことを承知しているからである。」心に強く感じました。

私たちは名古屋支部の最初の兄弟の地

方部宣教師だったので、まず初めに求道者を見つげるためいろいろな方法を、同僚と考えなければなりませんでした。

一、兄弟姉妹に家族や友達を紹介してもらおう。二、戸別訪問。三、英会話に来た人を宣教師に紹介してもらおう。四、街頭伝道。一、は私たちにとってもっともいい方法ですが、兄弟姉妹にお願いしてもとてもむづかしいことだと判りました。

二、戸別訪問。宣教師の行かない場所を訪問してアンケートを配り、アンケートを回収する時には雪も降る寒い夜で、ある家では叱られたこともありました。その時同僚と宣教師は大変だなあつくづく感じました。そして私たちは日中訪問出来ないことと、時間のかかる割にはむづかしいのでこれもやめました。結局三、四の方法にならざるえませんでした。そして街頭伝道がもっともいい方法だと感じ、姉妹の地方部宣教師と毎週土曜日の昼からと、ときどき日曜日に出かけました。全く知らない人を呼びとめて教会や神様のことを説明するのはとても勇気のいることです。でもそれはほんとい

い経験です。世の中にはいろんな人がいますから、その人にふさわしい語り方をしないと、私たちの教会に興味を示してくれません。時にはセールスマンの人に逆にもっとこの様に話してくれたら、私も行く気になるのと言われて、同僚と後でにが笑いをしたこともありました。

私はこの責任を通して皆さんの祝福

を受けました。求道者に教会の教義を教える為により深く勉強することが出来ました。そして初めは予言者をはじめ、いろいろの神権の役職の必要性をあまり身近かに感じなかったのが、完全なイエス・キリストの教会にはどうしてもこれらの役員が皆必要であることをよく理解できました。そして求道者に証詞を述べることによって自分の証詞と信仰が強くなっていくことを感じました。初めは只莫然と教会に行っているという感じでしたが、私たちの人生においてどうしてもこの末日聖徒イエス・キリスト教会が必要であるということを感じました。そしていつも一緒に同僚と行動を共にする経験もかつてはなかったことです。

家庭集会は私たちの一番楽しい時で、一番辛いことは求道者が約束の時間に来てくれないことです。そして宣教師として一番幸せなことは自分たちと一緒に勉強した兄弟がバプテスマを受ける時です。そして彼等が熱心に教会の責任を務めている時です。私たちが宣教師になった時専任宣教師はよく指導して下さいました。そして彼等と一緒に街頭伝道や戸別訪問をしたり、ときには楽しい食事も一緒にしました。しかし前の宣教師が変わり私たちの伝道方法はまちがっていたことを知り、会員の紹介以外の伝道はやらない事になりました。そして私は、彼等との間に宣教師である前に、モルモンとしての何か欠ける冷い感情を感じた

とき、同僚にもうやめたいとこぼしてしまいました。その様な状態でしたのでそれからの伝道は成功しませんでした。

クリスマスするとき私の部屋で、同僚と一緒に勉強した三人の兄弟と共に、クリスマスをお祝いました。灯のもとでルカ伝からキリスト誕生の聖句を読み、その間々にクリスマススの歌を歌って楽しく過ごしました。一五番「祈りは楽しい」のハミングのなかに、自分たちの好きな聖句を二つづつ読み、最後に手をつないで一人づつ神様に感謝の祈りをしました。

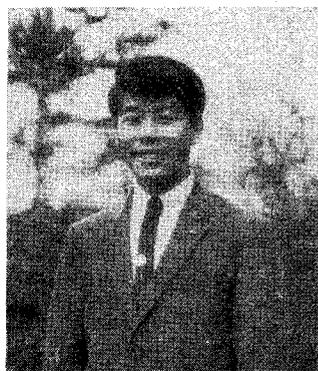
私はこのとき神様の愛と兄弟愛を強く感じました。そして心から神様に感謝せずにはいられませんでした。私にとってこんな楽しいクリスマスは初めてでした。

「而して汝らも生涯今の世の人々に向いて悔改めを叫ぶことに力を尽し、唯一人の人たりともわれに導かば、わが御父の国において彼と共に汝らの喜び如何ばかりぞや。さてわが御父の国にわれの許に導きたる唯一人の人につきて汝らの悦大いならば、汝らも多くの人を導き来らばその喜びは果して如何ばかりぞや。」この喜びは御父の国ではなくても今深く味わうことが出来ました。そして、たとえ専任宣教師になれなくても、同じ喜び悲しみの一部と、宣教師である自覚を、味うことが出来ます。私はこの責任程素晴らしいと思ひ出多い経験は初めてでした。私の如き信仰の少ない者を推薦して下さった古芝支部長、いろいろ助けて下さ

た兄弟姉妹と専任宣教師に感謝しています。全てイエス・キリストの御名によって致しました。アーメン

工藤博幸

(名古屋北支部)



愛する兄弟、姉妹の皆様いかがお過ごしでしょうか。各支部に在って身分自身のもてる力を十二分に使い頑張っていることでしょうか。私たちが、神様の御国発展のために自分のもっている知恵、力、才能を使えることは何とすばらしいことではありませんか。

かつて前世に在りし頃、イエス・キリストの案に賛成し、共に喜び、私たちがそは一生懸命に頑張ろうと手を握りあった仲だったかもしれせん。

私は地方部宣教師として働くことができ、本当に感謝の念で一杯です。福音をよく知り得ていない私にも伝道することができました。証詞によってすばらしい同僚の助けによって、神様の愛ある助

けによって……。そして今、私は知りました。私をまたあなたがたを、この世の人々は必要としていることを。願わくば、すべての人々が伝道というすばらしい経験をされることを、心から望んでいます。私は神様が真に生きてましますことを、ジョセフ・スミスが神から選ばれた予言者であったことを心から証詞します。

皆様の上に神様の豊かな祝福がありますようにお祈りします。全てをイエス・キリストの御名により証詞します。アーメン

富板紀代子

(名古屋北支部)



私が地方部宣教師としてのお召しを受けてからもう一年数カ月が過ぎてしまいい、本当に時の早さにびっくりしています。あと残り少ない伝道期間ですが、伝道

を通して私自身良い成長期間であったことを、神様に感謝しています。

多くの求道者を見つけるために朝早く長老たちや姉妹宣教師と一緒にテラシ配りをしたことや、今はもうっぱな会員になっていらっしやる多くの姉妹たちの家庭集会の場面が再び思い出されます。地方部宣教師になって最初の家庭集会は本当に私にとってすばらしいものでした。神様の導きと同僚のリードによって、求道者と私たち三人の心が良く通じ合って、神様のことや、福音が「何故私たちにとって大切なものであるか」を心ゆくまでお話しすることができました。又難しい求道者と家庭集会をもつ時、多くの会員は証詞人として、よく私たちを助けて下さいました。そしてこれらの難しい求道者程、私を成長させました、証詞を強くさせられたものです。これらの人々の心が開いて、神様のことを受け入れ福音を喜びとする時、本当に伝道が強い意味をもち続けていることを感じます。マッケイ大管長がおっしゃったように、「すべての会員一人一人が宣教師である」ということが今の私たちに与えられた、非常に大切な責任ではないでしょうか。

伝道は限られた人々ではなく会員一人一人の小さな善が、やさしい言葉がまわりの人々を感化し、神様の道に進む方向へと導いていくのだと思います。私は伝道をしていて、何事も一生懸命すれば、

たとへそれが今はとても辛くても、それをのり越えた時、本当に大きな喜びが心を満してくれることを知りました。

人を神様の道に導くことはやさしくもあり、また非常に難しくもあります。本当に会員として、また神の子供としても一度心を新たにしたい、自分のまわりの人々を見直してみたいと思います。神様が生きていらっしやり、イエス・キリストが全人類の救い主であることを心から証詞します。すべての兄弟姉妹の上に神様の恵みがありますように、すべてのことをイエス・キリストの御名によっていたしました。アーメン

鮫島 邦彦 (北海道第一副地方部長)



厳しい北海道の自然にもどこか春を感じさせる日ざしとなりました、厳寒と深い雪に人々も凍りつくように、当地

方部の冬の伝道の困難さはしばしば多くの宣教師の体験よりお聞きのことと思います。このような条件にも負けず現在八人の地方部宣教師が召され、一人一人が実によく働いて下さっています。その成果も着々と上がりつつあります。この伝道計画の私共の今年の目標は地方部宣教師をあと四人増し、彼等によって多くの人々に福音を伝え、お互に協力し合って、宣教師として召されるときにいつでも応えられるように準備することであり、この結果一人でも多くの人がより完全な福音を知り、理解し、実践し、神様の恵みと祝福を受けることが出来ますように、私共の力を使うつもりでいます。

マッケイ大管長が常々いわれています。会員一人一人は宣教師であります。という言葉は私たちにとって実に意味深いメッセージです。この末の日に真の福音を聞き、その喜びを知った者は、自分たちの隣人、家族にそれを伝えるのは当然の働きでしょう。

アルマの述べた証詞、あなたたちは神の羊の群に入って神の民といわれることの重要性と必要性を伝え、互いに苦難を軽くするために喜んで助け合うこと、悲しむ者を思いやって共に悲しむこと、慰めが要る者を慰めること、がどんなに一人一人に喜びを与え、勇気を増しそして満足した心をもって生活出来るかを、多くの人々に知っていただきたいと願っています。またこのことが永遠の生

命への道を歩むのだということ。

このあわただしい、高度に文明化された一人人間の自由意志がないかのような感を与え、世界に、生活している我々にとって、神の教えは以前にもまして必要なことではないでしょうか。神様を、イエス・キリストを、福音を、人間を、自分自身を、何んであるか知る機会のない沢山の善良な人々がいらっしやいます。そのような人々に私たちが伝えるのは実に必要なことではないでしょうか。

。智慧を求めよ、さらば、神の奥義は開かれ、それより汝ら富めるものとせらるべし、見よ永遠の生命を有つものは富めるなり……。汝らは今の代において大いに善を行う仲立となるべし。汝ら今の代の人々に向いて、悔改めのほか何事も語るべからず。わが誠命を守り、またわが誠命に従いてわが業を起すを助けよ、さらば汝ら幸福なり。

誠に、主なる神様が、私たち一人一人に期待されている事柄を、よくわきまえて毎日の生活をおくりたいものと思えます。(北海道地方部宣教師担当)

近藤 時江 (東京東支部)

地方部宣教師としての伝道を終えまして、早くも半年になります。

ふり返ってみますと二年の伝道はアツ



ト言う間に過ぎ去ってしまったような気が致しますが、私にとって本当に進歩の機会でもありました。

始めのうちは家庭集會中、ずうと胸がドキドキして、覚えてきたつもりりのレッスンも言えず、同僚に助けていただいたのを思い出します。しかしドキドキしていた胸も何回か、家庭集會を行っていたうちになくなり、聖靈に満されるといふ実感を覚え、同僚と喜びを分かちあう楽しい思いを致しました。

またあるときは私たちがのべた福音を心より受け入れて下さった家族の方もあり、重かったテープレコード、スライドそれにレッスンの教材も帰りには軽くさえおもえました。

しかし良いことばかりでは有りません。チラシを配っていて、手に取っても、見もせず過ぎ去って行く人、見ているかと思うとゴミ箱へ投げ入れる人、そんな様子を目の当りに見るとき、とても残念

でした。

また、家庭集會が何週間もないとき、そんなときほどつらいときはありません。しかしこのときほど伝道の大切さを身をもって知り、悟る機会でもありました。私はこの伝道生活の経験を中心に感謝しております。

また宣教師に召されて、初めて知った喜び、それは何と言ってもパプテスマのときでしょう。苦しいこと、いやなこと一切忘れ、ただ喜びと、感激が胸いっぱいになり広がります。それは言葉では、言い表わすことのできない喜びであり、この味を一人でも多くの兄弟姉妹に味わっていただきたいと思えます。

汝にとりて最も価値あることは汝今の世の人々に悔い改めて宣べて人々を我に導き次で彼らと共に父の御国に休まんとことなり。DC・一五・一六

伝道の目的は、人々に福音を伝えて、人々に幸福をもらすことです。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか。

私は五年前、宣べ伝える者によって福音を受け入れることが出来、心より感謝致します。末日聖徒イエス・キリスト教会は真に神の教会で有り、教義は私たちを神の国へ案内して下さいませす。神は真に生ておられます。キリストは私たちの救い主で有ることを証言致しました。

柳 田 藤 吉

(名古屋支部)



地方部伝道部の御召が私に来たとき、私は真実当感した。なぜなら、間もなく停年を迎える私のために、会社では東南アジアへの派遣を計画して下さったからである。然し御召は待つて頂くことも、辞退することもできないものであった。どうなるか分らないまま、私は御召を受けそしてこの新しい責任を喜んだ。

私の国外派遣はいつの間にか立消えになり、停年という失職が近づいて来たが第二の仕事については何の目当てもつかなかった。長い間会社勤めをして来た者にとつて、停年が目の前に迫っていると云うことがどんなものであるか、経験した者でなければ理解して頂けないと思う。

このようになると、私の次男に専任宣教師の御召が来た。その少し前に、大学在学中の彼からは伝道に出たいという手紙が来ていた。私と妻は息子の希望を何と

してでも、かなえて上げたかった。生活を工夫すれば私の停年までなら伝道費を負担できそうであった。この先どうなるか分らない私たちであったが、希望に顔を輝かせて、召されて出て行く息子を見るのはほんとうに嬉しいものであった。いよいよ停年の迫ったある日の出来ごとをお伝えしなければならぬ。

私は思いがけなく、曾ての上司が社長である新会社に招かれることとなった。仕事はこれまでの三菱の内容より、より私の専門に近いものであり、しばらくは、息子の伝道費を支え得る給与である。しみじみと私は、主の大きな愛と計らいを感じたのであった。

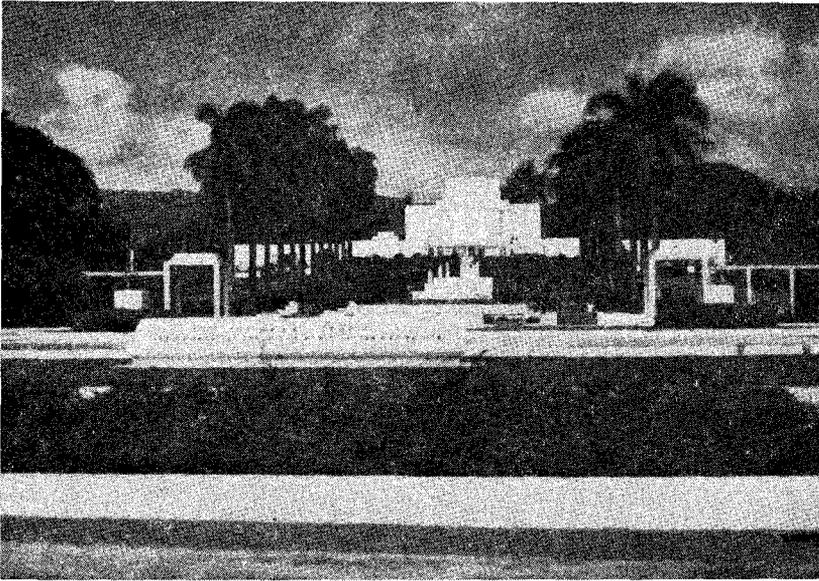
名古屋支部の四人の地方部宣教師の働きと信仰は、度々私を感激させた。然し私の働きが主の目に満足であるとはどうしても思えない。にも拘らずこのような恵みにあずかるということは、伝道に出ている次男喬夫が、主の目にとまってくるからとしか考えられない。

「一人の義人があるとき、その祝福は家族におよぶ。」

この真理を私は曾て名古屋支部に伝道した宣教師の証によって知った。いま私は心の中から、この言葉が真実であり、主は私たちを見捨て給わず、御言葉の通り、必ず約束を果して下さいと云うことを申し上げたいのである。

すべて主、キリストの御名によって申し上げます。アーメン。(西中央地方部伝道部長兼第一副伝道部長)

ハワイ神殿訪問予定者であるあなたへ



緑につつまれたハワイ神殿

当伝道部では一九六九年第三回目のハワイ神殿訪問を計画していますが、次に掲げる計画は第五長老定員会々長会より出されている準備の提案です。あなたの御参考のためにここに発表します。

長老定員会会長会では、一九六九年のハワイ神殿訪問予定者のために、下記の通り準備の方法を提案致しますので、各支部において支部長及び長老グループリーダーを中心に、よく指導し実施して下さい。

1 まず訪問予定者の名前を会長会まで連絡して下さい。名簿作成をし、必要な資料等を送付致します。今後増えたりする場合は、毎月のレポートの下の方に記入して下さい。

2 系図を提出しないで神殿へ行くのは全く無意味です。自分のためだけでなく、先祖の救いのために行くことも知るべきです。各支部にすでに系図提出者がいれば、その方からも指導をうけるか、系図アドバイザーは自ら指導し全力を尽して下さい。

一月—四月、資料集め

四月—十月、記入

十月—十二月、チェック、提出

系図の仕事には、根気と時間と資金を必要とします。一刻も早く計画を立てて実施するのがコツです。

3 何んの用意もなく神殿へ行くのは間違いです。福音についてよく準備し、神殿に入るために毎日の生活を潔く霊的に保つことが大切です。そのためにも教科書を改めて読むことを進めます。

一月—四月「奇しきみわざ」

五月—八月「シオン山の救い手達」

九月—十二月「家督権の祝福」

一月—四月「完成への道」

4 旅費その他を含めて、正確ではありませんが一人当たり約十五万円位必要だと思います。来年の五月まで毎月四千円づつ更に、ボーナス月に五万円を二回貯金すると目標にたっします。無駄使いをやめてコツコツ貯金して下さい。一九六七年度の経費を参考にして下さい。

旅費 十万五千元

パスポート 五千元

滞在費(宿泊費、食費) 一万五千元

ガリメント(神聖な下着)三枚 五千元

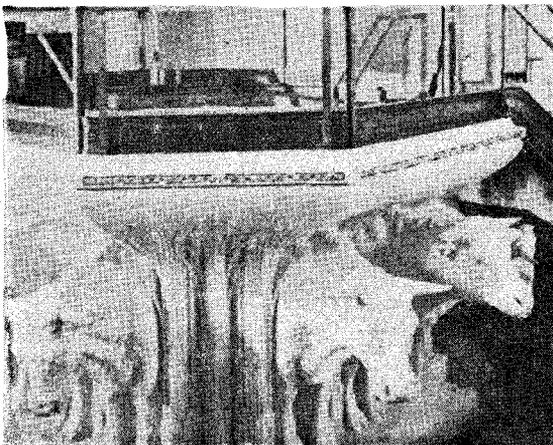
雑費(お土産代含む) 二万円

以上合計十五万円です。

記事のうち一部は一九六七年度配布のものを修正してありますのでご了承下さい。

第五長老定員会会長会

死者のパプテスマフオント





扶助協会レッスン

家庭訪問教師用メッセージ



日常の生活にて履み行うべき 教義と聖約中の真理

十二月用

メッセージ七五

「われ誠に汝らに告ぐ、汝らわが聖き書を急ぎ翻訳して、歴史の知識、諸国の知識、王国の知識、神と人の律法の知識を得、而してこれらをすべてシオンの救いのため得んことはわが欲するところなり。」(教義と聖約九三・五三)

目的—我々自身と子供たちの絶えざる勉強の重要性を認識する。

大地を整備し、新しい家と納屋とを建てなければならなかった。発展すべき回復された教会、訓練すべき指導者たちと前途となされるべき伝道の仕事があった。これらの仕事にもかかわらず、主は予言者ジョセフ・スミスを通して聖徒等に学び、知識を得、真理を探求するよう命じたが、それは大変なことであったに違いない。「真理とは、事物の現在あるがまま、過去にありしまま、未来にあるがままの知識なり。」(教義と聖約九三・二四)

学ぶということは永遠の課程である。指導者たちはこの誠命に従った。主が予言者たちにくわしくのべられた、広くし

かもすべてのことを含んだ教えを学ぶために、学識のある者もない者も共に座した。先生も教授も、その中の幾人かは会員ではなかったが、教えるために召された。

昔から主は無智なるが故に起きた古く、常習的な社会問題を攻撃しておられた。およそ三千年前、予言者ホセアを通して主は「わたしの民は知識がないために滅ぼされる。あなたは知識を捨てたゆえにわたしもあなたを捨てて、わたしの祭司としない。あなたはあなたの神の律法を忘れたゆえに、わたしもまたあなたの子らを忘れる。」と云われた。(ホセア四・六)

イエスはこの世で人々を導いておられる間に次のように云われた。「……そして真理は、あなたがたに自由を得させるであろう。」(ヨハネ八・三二)

教義と聖約には「人は無智にして救われること不可能なり。」と書かれ、また同じように「さればもしある人ありて、精励従順によりこの世において他の人よりも一層勝れたる知識と英智とを得ば、未来の世においてそれだけ利を得べし。」(教義と聖約一三〇・一九)と書かれて

いる。知識を得ることの重要性が聖典の中に

色々と書かれているので、勤勉な末日聖徒の母親は次のように尋ねるかもしれない。「私の仕事は何ですか。何をすべきですか。」そしてその答は「学び、知識を得、真理を探求し、自分自身を訓練し、自分の子供たちに教えなさい。」であり、次に「彼等に何を教えるのですか。」答は「神の律法と誠命である福音を、精励従順に祈をもって学ぶことを教えよ。」

「これは今私がしようとしてしていることなのです。」「それはよい。それに付け加えて、このメッセージのために聖典が述べている如く、古代と近代歴史の知識を得よ。すべての国と王国について学びなさい。」「どのように勉強するのですか。」

「国について学ぶには色々なすばらしい方法があります。先生に教えることも出来るし、書物は世界の視野を広めてくれる。出来るときには旅をして、彼等の国と王国について彼等にたづねよ。テレビやラジオは自分の家にいるあなたがたに全世界を紹介してくれるのです。」「他にまだありますか。」「はい、あります。」

それは興味深いことと際限のないことです。そして文章になっているかいないかにかかわらず、彼等の律法を学び、同じように世界のすべての文化を動かしている習慣と伝統を学ぶことを付け加えなければならぬ。「しかしどのようにしてこれらすべてを学ぶことが出来るのでしょうか。」「今日そのうちのある部分から始めなさい。あなたは限りない時間を

持っているが、今日は永遠の一部分であり、ときは大変貴重である。」

一月用

メッセージ七六

「故に、われ汝らに言いし如く汝ら求めよ。さらば与えらるべし。」

目的—人が受けるすべてのことは神の助けと同時に彼自身の努力をも要求することを知る。

主イエスはすべての人を愛し、彼等を教え導くためにこの世に生き、彼等を救うために死なれたのである。主は繰返しご自分に近づくことを勧められ聖書の中で次のように云われた。「汝ら求めよ、さらばわれ汝らに近づかん。熱心にわれを求めよ。さらば、汝らわれを見出さん。求めよ、さらば与えられ、叩けよ、さらば開かるることを得ん。」(教義と聖約八八・六三)

なんと偉大で心あたたまる招待を人々は受けることが出来るのであろう。

しかしこの世の多くの人々は主を見出さず、絶望し、神は死んだのだと主張している。

彼等が、おそらくときには、我々も主の招待し給う意味を、間違つて考えることが出来るであろうか。

六才になる一人の子供が母親のそばにひざまづき、次の日の朝が天気で、家族で計画しているピクニックに行けるよう

にと祈ったとする。次の日は一日中あいにくの雨である。

そのとき疑の種がまかれ、彼はこのように尋ねる。「神様は私の祈りを聞いては下さらなかったのですか。」

これは母親に子供を教える瞬間を提供し、その子が、おそらく農夫が雨を願って祈ったことを理解することが出来るよう助ける好機会を与えるのである。母親の目的は最後に「神様、あなたの御心のままに」と祈ることが出来るように、子供が年ごとに成長する如く、祈りにおいても成長するよう助けることである。

数年前のことある夫婦と子供たちは、家を出る前に祈らなかつたことを思い出して、ハイウェイから離れた。彼等が近づいてくる車の方に曲つたとき、車に衝突し、五才の子供は死んだのである。その意図が大変よい意味を持っていたときに起つたこのような悲劇は人に「何故神はこのようにさせておかれるのでしよう」と尋ねさせるかもしれない。しかし我々は宇宙の法則はないがしろに出来ないし、注意深く責任を持って運転すべきことを覚えていなければならぬ。その家族の正しい祈りを主はお聞き入れになったが、彼等は安全の規則を守っていなかったのである。

対抗するチームや競争者あるいは戦場で、また子供が太陽の輝きを願ひ、農夫が雨のために祈る場合においてさえそうであるように、互に反対の答えを求めて

祈る場合が多くある。

我々が祈るとき自分たちの責任や主の目的と意志をしはしば誤つて考えていることはないであろうか。

もし我々が愛する主なる父としての神に近づくなら、何を願ひ求めるであろうか。我々は考え深く、信心深く祈りのうちに自分の任務を考えるのである。神の助けを求めながら自分たちの出来る限りのことをしたのであろうか。何を祈るべきか主のみ心を知るために注意深く聖典を学んであろうか。我々は自分の責任を感じ「私に期待されていることを私はしているでしようか。」と尋ねるであろうか。

聖典には人はためらわず、護遜に主に近づき、更に熱心に主を求め、主の前に正しく歩み祈り求めるべきであると教えている。

二月用

メッセージ七七

「この故に汝ら心安かれ。万事は正しき行いを為す人々と教会の聖めのために結局好転すればなり。」(教義と聖約一〇〇・一五)

目的—正しき行いをする人にとって生活のすべての経験は好転することを知らる。

もやのジャンゲルで人が死に、元気で有望な六才の子供が自動車事故で無能力

になる。

八人の子供を持つ母親はインフルエンザで死に、雪崩で多くの人々が埋められる。人々は飢えて死ぬ。絶望と無力の懇願のうちに、主のおだやかで人の心に安らぎをもたらす約束がなされるのである。「この故に汝ら心安かれ。万事は正しき行いを為す人々と教会の聖めのために結局好転すればなり。」(教義と聖約一〇〇・一五)

末日聖徒はこの世に生きる目的の一つは試みを受けるためであることを知っている。初めに、人がこの地上に住む前に神は次のように云われた。「而して、これによりて彼らを試し、何にてもあれ、主なる彼等の神の命じたまわんすべてのことを彼らが為すや否やを見ん。而して最初の位を保つ者は更に附け加えられ、最初の位を保たざる者は、最初の位を保つ者と同一王国にて栄えを得ることならん。而して、第二の位を保つ者、とこしえに栄光をその頭に附け加えられん。」この偉大な計画で人は悪から善を知り、望みを持って善を選ぶことである。この大きな試みにおいて我々のすべてに災難が訪れる。主は人が苦しんでガんで死にまた他人を苦しめて殺し、女は出産で死ぬ。そうして飛行機事故は愛する人々の命を絶つことをご存知でないが、しかも戒められ「この故に死に至るまでも怖るるなかれ。この世の中には汝の喜びは満たされざれども、われにおいて汝の

喜び満たさるればなり」と云われた。

〔教義と聖約一〇一・三六〕

キリストについて聖典には「彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び」とある。

（ヘブル書五・八）

もし栄光と幸福が救い主によって得られなければならないならば、主が次のように云われるとき、我々は慰められないであろうか。「わが子よ、汝心安かれ。

汝の不幸汝の困苦はこれ束の間なり。然り而して、もし汝よくこれを耐え忍ばば神は汝を高きに挙げたまわん。かくして汝あらゆる敵に勝つことを得ん。」（教義と聖約一二一・七七八）

我々自身が悲しみと、不幸にあうとき他の人々に奉仕することは、その人たちを助けるだけではなく、自分自身にとっても慰めになるであろう。それでは飢える人に食事をさせ、喉の渇いた人には水を、裸の人には着せ、病人や監獄にいる人を訪ね、心から主を愛し、隣人を愛しながら正しい行いを為すようにしよう。もし我々が第二回扶助協会集会においてあたえられたジョセフ・スミスの戒めに従うならば、我々は「急いで行って見知らぬ人を助け……苦しむ者の傷ついた心に油とワインを注ぎ……孤児の涙をぬぐい、未亡人の心を慰めるのである。」

もし我々が正しい行いを為すならば、愛することを学び、耐えること、寛大で親切で、情け深く、思いやりのある人に

なることを学ぶのである。そしてそれらすべての経験は好転するということを教えてくれるであろう。

◎十二月分から二月分までは、すでに各支部に送られていると思いますが御参考までに掲載しました。

三月用

メッセージ七八

「もし汝らが誠命を守らば、御父の完きを受け、わが御父における如く、汝らわれにありて栄を得べし。」（教義と聖約九三・二〇）

目的—従順であれば人に対する神の約束には限りがないことを学ぶ。

予算は底をつき、子供たちの行動も堪えがたいものに思われ、それに十代の若者たちが無責任なことを云ったりして、絶望の瞬間が我々を襲うとき、次のように自問することはないだろうか。「やり甲斐が有るのだろうか。」「自分たちは本当に大切なことをしているのだろうか。」このような絶望の日を送った後で、何もかもがうまく行かないように思われるとき、幾度涼しい夜の外に出て、あなたが、わたしが一星を見上げたことでしよう。何億年も昔の光がまだに輝き、まるで神の創りたもうたこれらの星は、空いっぱいになりばめられた宝石のように見える。このようにすばらしい光景をみると、いくらか心が落つき、力を得る

助けとなってくれるのである。

新聞雑誌、ラジオ、テレビ対話など、

ほとんどあらゆるかたちのコミュニケーションを通して、この世の多くのものが高度なものに欠けていることに気づく。

人が求めているのは何であるか。多くの人はその生涯を権力、支配欲、富、財産名声、特権などのために送っているかのようと思われる。我々は自分の時間や才能を何のために使っているのだろうか。知識欲にもえ、そのために努力しているのだろうか。真理を求めているのだろうか。計画の実現を熱望し、また主の戒めを守り、主の仕事が促進されるよう助けとなっているだろうか。このようにしている人たちのために主は次のように云われた。「御父はこれらの者の手にすべてのものを与えたまい。この故にすべてのものは皆彼らのものなり。生けるものも死ぬるも、現在のものも、はた未来のものも皆然り。すべては彼等のものにして、彼らはキリストのもの、キリストはまた神のものなり。」（教義と聖約七六・五五—五九）

主の戒めを守って受ける祝福を来世のみにあると考えるはならない。

主の御言葉を聞きなさい。「わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおしげな。」（ヨハネ伝一四・二七）

「地上を歩くものは汝らのものとなるべし。」（教義と聖約五九・一六）

りっぱで信仰深い者たちへの神の約束は彼等が「神とそのキリストとの御前にいつまでも限りなく住まわん」ということである。（教義と聖約七六・六二）

「而して何事も一つとして隠さるることなく、世に一つの神あるか、または多くの神々あるか、このこと明らかにせらるるとき来らん。あらゆる王権と統治の権公権とその他の支配権頭されて、イエス・キリストの福音のために勇敢に耐え忍びたる者皆の上に飾られん。」（教義と聖約一二一・二八—二九）

四月用

メッセージ七九

「かくの如くして二度三度に至り、また敵汝に対して罪を犯す度毎にこれを悔い改むれば彼を赦して七度を七十倍するに至れ。」（教義と聖約九八・四〇）

目的—決して人を許すことをためらってはいけないことを教える。

受難前のキリストの苦悶と残酷な死のときであった。神の一人子の側にたっていた選ばれた人たちにとってその死を見ることは耐え難いことであった。群集がしゆるの枝を道一面にまきちらし「イスラエルの王」と歓呼して迎えたのはほんの幾日前のことであった。気まぐれな群集にみはなされ、同じ民

の指導者たちに罪を申し渡され、二人の犯罪人のあいだで苦しみながら十字架についておられた。そのときイエスは云われた。「父よ、彼らをおゆるし下さい。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。」(ルカ伝二三・三四)

苦しみのさ中にも、イエスの心は自分に肉体の死を与えたこれらの人たちに對する憐れみの気持でいっぱいだった。自分自身の苦しみばかりではなく、彼に罪を犯したこれらの人たちのことを考えておられたのである。寛容の精神を決して失うことはなかったのである。

何世紀も後の現在でも、勝利を得、復活された主は寛容について次の如く助言された。「主なるわれは、その赦さんと欲する者を赦す。されど汝らにはすべての人を赦すことを求めよう。

汝ら心の中に言うべきなり。神をして汝とわれとを審き、また汝の行爲によりて汝に報いを与えしめよと。そは人その兄弟の過ちを赦さざれば、その人主の前に罪に値する故にして、そは更に大いなる罪なお彼に在ればなり。(教義と聖約六四・一〇・一一九)

一八三三年の八月、聖徒たちはまもなくその迫害と死を知るところであった。主はこのことにそなへ次のように云われた。「かくの如くして二度三度に至り、また敵汝に對して罪を犯す度毎にこれを悔い改むれば、彼を赦して七度を七十倍するに至れ。」(教義と聖約九八・四〇)

誰れかが我々の感情を傷つける。我々はその仕返しをするだろうか。恨みをいだくだろうか。また誰れかが我々のうわさをして廻る。誰れかの中傷に對し我々も同じことをするだろうか。誰れかが我々を欺き、我々の仕事や成功を阻む。我々はどうするだろうか。神は「昨日も今日も世々限りなく同じ神にてある。」(教義と聖約二〇・一二)

昔ユダヤでソロモンは「あなたのあだが倒れるとき楽しんでほならない、彼がつまづくとき心に喜んでほならない。」といった。(箴言二四・一七)

主は伝道の間に次のように教えて云われた。「敵を愛し迫害する者のために祈れ。」(マタイ伝五・四四)

扶助協会への記憶すべき話の中で、予言者ジョセフ・スミスは「我々は救い主が命ぜられたように七度を七十倍するに至るまで彼等(罪人)をまだ許してはいない。おそらく一度も彼等を許してはいないだろう。」

ある程度我々すべてが罪人であり、天に在す我等の父に許しを願わなければならぬ。それ故日毎、次のように祈らなければならぬ。「わたしたちに負債のある者をゆるしましたように、わたしたちの負債をもおゆるしください。」(ジョセフ・スミス靈感訳聖書マタイ六・一二)

人を許し理解することで、愛の偉大さに心を開き、それによって、主が我々に

約束された許しをいただくにふさわしい者となるのである。そのときにだけ本當に寛大で、愛情深く、もてなしのよい、役に立つ、よい隣人になることが出来、また愛情深く、寛大で勤勉な友となることが出来るのである。自分本位の利益を忘れるなら、我々は自分の敵を捜し出し彼等を許し、さらに友だちになる努力をすることが出来るのである。

五月用

メッセージ八〇

「およそ一切の勝利と光栄とは汝らの勤勉、忠実および信仰による祈りによりて来るなり。」

目的―何事も努力と信仰をもつてなすべきことを学ぶ

人は希望や抱負、夢などを持つがそれはすばらしいことである。子供たちは教室の窓から外をながめ明日の希望に胸をふくらませる。恋人たちは未来を語り、老人は妒ばたて昔を想い出し、未来を考える。夢を持つことは大切なことである。なぜならその中にしっかりと未来をみつめ、現在あるものを変えて行くからである。

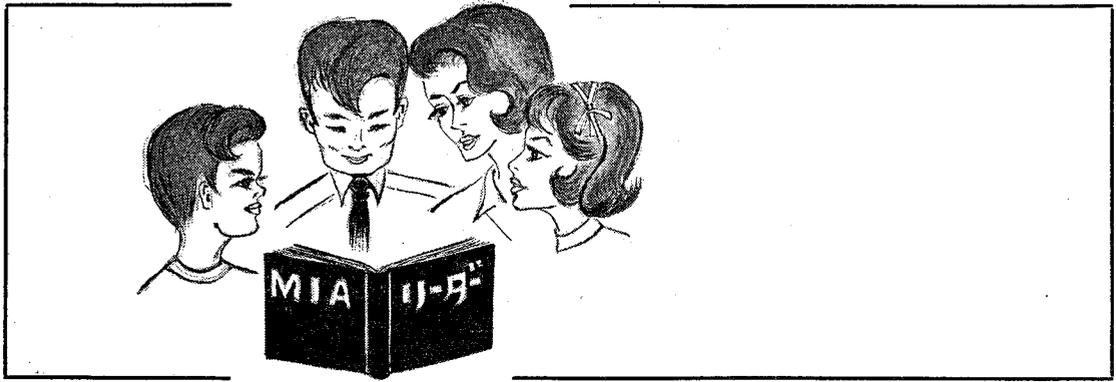
我々は何を夢みているであろうか。りっぱな邸宅や楽しみそして安楽な生活だけを望んでいるのだろうか。それとも自由になれたり、罪悪からのがれ、さらにこの世の生活の限界からのがれることか。

出来るべきを熱望しているだろうか。平等を熱望し、世界が愛や慈悲、それに正義の力で支配されることを熱望していないだろうか。我々が主と共に住むにふさわしくなることを熱望していないだろうか。如何にしてこれらの夢を實現し得るであろうか。熱望したり、夢みたりするだけでは十分ではない。「われら何にても神より祝福を受るときは、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり。」(教義と聖約一三〇・二〇)

「さればもしある人ありて、精勵従順によりこの世において他の人よりも一層勝れたる知識と英智とを得ば、未来の世においてそれだけ利を得べし。」(一三〇・一九)

勤勉とはどういうことを意味するのであろう。それは義務を果し、注意深く辛抱強く努力し、全力をつくし心をかたむけ常に努めることである。

主は「われ誠に汝らに告ぐ、人は努めて善き業に従い、多くのことをその自由意志によりて為し、多くの正しきことを為し遂げよ。」(教義と聖約五八・二七)と云われたとき、主は勤勉について、話されているという事は出来ないだろうか。これらの聖句や他の多くの聖句で主は絶えまなく辛抱強い努力をするよう我々に求めておられる。どのような偉大な仕事も大いなる精神力と行動力、信仰とそして努力なしには達成されない。いか(12頁中段に続く)



第一回ガールズ・プログラム

受賞計画の受賞者発表

おめでとうございます

此の度、第一回のガールズ・プログラム個人賞を受賞された皆さんを誌上をもって御紹介出来ませうことを、私の喜びとするところです。本当に、それぞれの困難な条件を克服されて、クラスの教師の方々やMIAの役員の方々、また支部長さんの計画されたことに活発に参加し、九項目の条件を完全に果して、栄えあるこの誉を受けられました。私は今、一人一人賞状を手にした、喜びの顔が目に見えます。「おめでとうございませう」。

一昨年九月本伝道部にガールズ・プログラムが発足する際、登録されました少女たちは実に四五名ありました。其の中から二十九名の方が個人賞を受賞され、一名の方が特別賞を受賞することになりました。この三十名の少女たちが熱心に、且つ、証詞を持って、日々潔い生活を送ったことは、色々な面で彼女たちを進歩させたことを私は知っています。また、各支部にあって、少女たちを励まし、助けて下さった支部長さんや、YW MIAの会長さん。また、直接指導に当たられたクラス教師の皆様本当に心より感謝致します。また陰になって、その

数々の記録の事務に責任を持っていられたガールズ・プログラム書記の皆様は、今感謝の念で一杯です。このガールズ・プログラムの書記の皆様が、己れの多忙をかえりみず正確に、数々のレポートを毎月提出して下さいましたので、このプログラムの申請書もスムーズに書き出すことが出来ました。多くの人々の協力と援助によってこのガールズ・プログラムを成功させることが出来ました。特に伝道部女子の管理にあたられます小松姉妹に色々助けを頂きましたことを感謝致しております。今ここに、其の方々の御名前を御紹介致します。(尚写真の提出されなかった方がありますので全員の写真がそろいませんでした。)

個人賞

- 久瀬久美子姉妹
- 金村裕子姉妹
- 岡町支部
- 小島あつみ姉妹
- 籠屋久子姉妹
- 菅本和子姉妹
- 西口久美子姉妹
- 津島利子姉妹
- 岡山支部
- 坂本美代子姉妹
- 京都支部
- 稲場房江姉妹

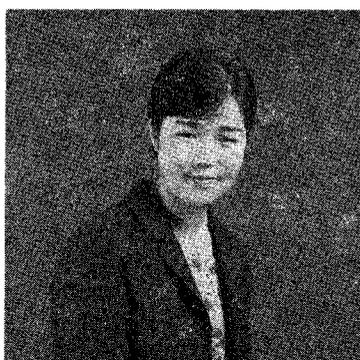
- 三ノ宮支部 鷺沢真理子姉妹
- 西ノ宮支部 戸田敬子姉妹
- 〃 寺井絹子姉妹
- 広島支部 香川幸子姉妹
- 〃 引寺きよみ姉妹
- 仙台支部 周久子姉妹
- 〃 川村喜久子姉妹
- 東京北支部 安井芳子姉妹
- 〃 西古久枝姉妹
- 東京中央支部 園田真智子姉妹
- 〃 田川保子姉妹
- 〃 石井三枝子姉妹
- 東京西支部 亀井合子姉妹
- 〃 寺島早苗姉妹
- 〃 高江万里子姉妹
- 東京東支部 清水菊江姉妹
- 〃 近藤時江姉妹
- 〃 近藤春江姉妹
- 〃 野阪真代姉妹
- 〃 青木春美姉妹

特別賞

福岡支部 富永綾子姉妹
 以上の方々が立派な生活を認められまして、今回受賞されました。
 残念ながら、昨年チャレンジに失敗された姉妹たちは、今年こそ、ガールズ・プログラムの中の一員として、頑張ってください。個人賞を授与される資格は決してむづかしくありません。クラスの先生の計画に協力し、参加することによってその目的を容易に理解することが出来ます。主が私たちに教えられたことを守る



北・安井 房子



仙台・川村喜久子



仙台・周 久子



西・寺島早苗



西・亀井令子



中央・園田真智子



東・近藤時江



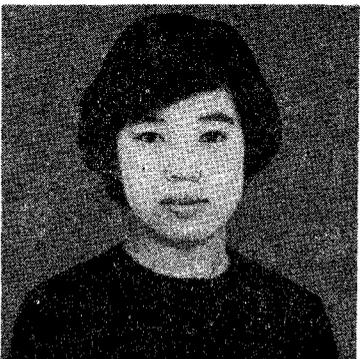
東・清水菊江



西・高江万里子



横浜・青木春美



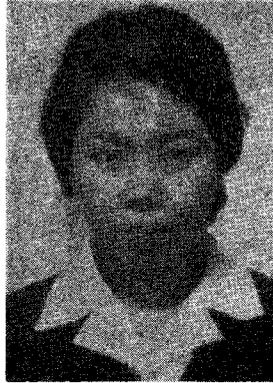
東・野坂真代



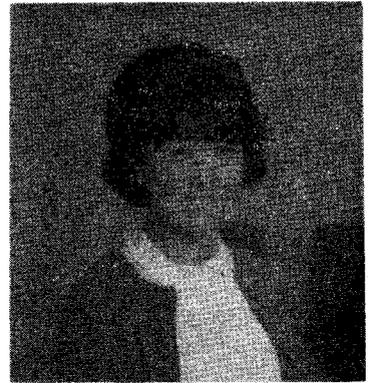
東・近藤春江



中央・田川保子



中央・石井三枝子

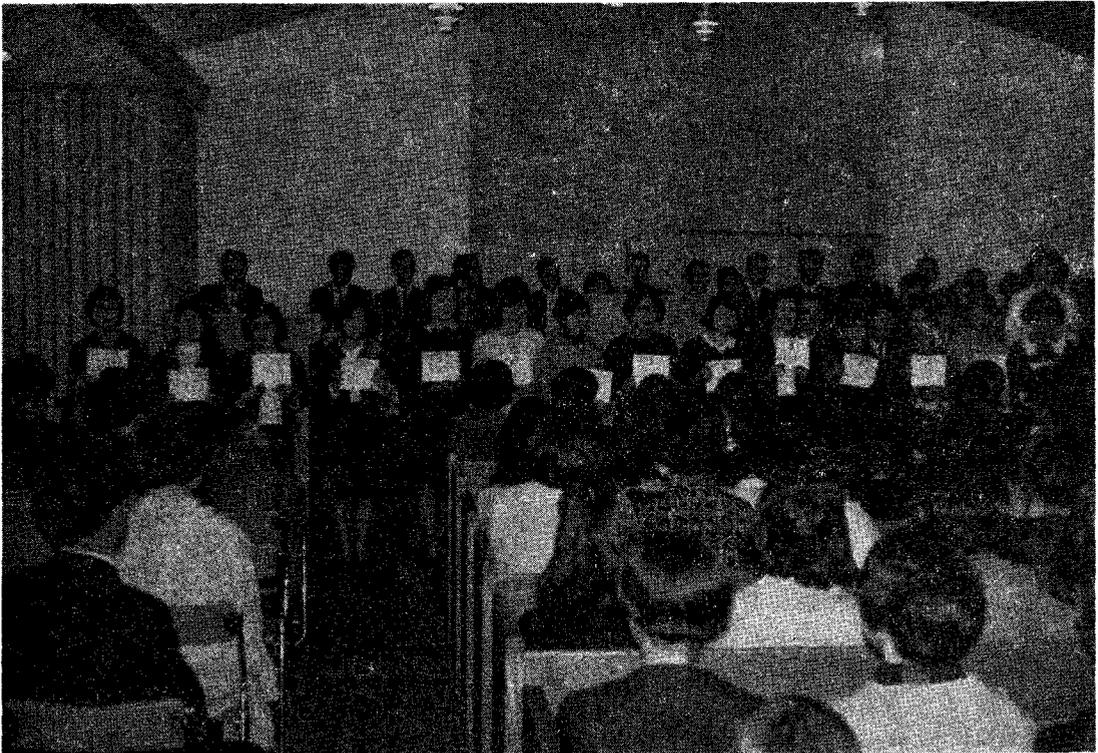


北・西古久枝

西中央地方部

14名のガールズプログラム

個人賞授賞式



と言う基本的な行いが、大きな強い決心を生み出す力となります。今年はずっと沢山の人がこの賞を受けられますようにと心より願っております。

今、私は自分のことのように喜びでいっぱいです。再びここに「おめでとう」を言わせて頂きます。

佐藤 栄子

(伝道部YW MIA会長)

M I A 月間レポート状況

皆さん今日は、いつもM I Aの為にあなたの時間を奉仕して下さい心から感謝いたします。

M I A月間レポートの記入の仕方及び気の付いたことを少し述べさせていただきます。

今年度(九、十、十一、十二月)のM I A出席率は左記の通りですが、※の記入してある所は、各支部の書記の方が毎月七日(今年三月からは五日)までに伝道部に着かなかつたものです。

べ切日に間に合わないものは記録にのせることが出来ず、したがって、アメリカにもレポートを提出しなかつた支部となつて報告されます。

どうぞ決められたべ切日までに、必ず間に合うように、各会長の方々また書記の方々の御協力を心からお願いたします。

ます。

レポートの記録の仕方ですが
一、平均出席人数の数字は必ず小数点第二位を四捨五入して、小数第一位までといたします。

小数点以下を切捨てるようなことのないよう注意して下さい。

一、各支部(特に東中央地方部)の登録人数が非常に少ないようですが、同年度内に三回以上出席した人は、登録人数の中に加えられます。

したがって毎月同じ登録人数ということはあまりあり得ない訳です。

一、活動のクラス等の記録は必ず正確に

記入して下さい。

無記入の支部が、二、三見受けられますが、一度も活動のクラスを開かなかつた場合は、○と記入するようお願いいたします。

一、ミューチュアル・スタディーのクラスについてですが、レポートの記入欄は必ず男女別に記入して下さい。

毎週出席の記録をとる時にも男女別に分けて記入し、月間レポートにもそのまま記入するようにして下さい。

本年度二月分(三月五日べ切分)からは、新しい書式の月間レポートになりましたが、わかりやすくはつきりと復写し

数字は正確に記入し、一番はつきりした一枚目を本部の方へお送り下さるようお願いいたします。

以上気の付いた点を述べました。各支部の皆さんの方からも質問、又お分りにならない点等ありましたら、御質問下さい幸いです。

各支部のM I Aの会長の方々、書記の皆様の上に神様の恵みが豊かにありますように心からお祈りいたします。

島田 鶴子

(伝道部M I A書記)

M I A月間レポート平均出席人数

月		9 月	10 月	11 月	12 月
支 部					
阿 野	部 野	67.2	68.7	64	57
旭 川	部 川	15	14	20	※
福 岡	群 岡	27.4	27.4	22.0	36
廣 馬	島 馬	※	※	38	38
金 沢	府 沢	28.2	25.5	※	※
甲 府	都 府	35.1	32.9	29.8	41.4
京 都	本 都	20	12	※	※
松 本	蘭 本	30.7	※	23.6	28.1
室 蘭	屋 蘭	22	21	21	27
名 古	屋 古	14	17	14	15
新 瀧	宮 瀧	40.1	※	※	※
西 宮	町 宮	25.1	18.7	※	18
岡 山	山 岡	25.1	22.3	23.2	28.7
小 樽	山 樽	47.5	51.8	※	※
三 宮	宮 三	22.7	23.6	※	19.3
礼 幌	台 幌	25	24.9	18	※
仙 台	台 仙	19	31.5	27	※
東 中	央 中	53	65	※	※
東 東	北 東	37	※	35.7	30.6
東 京	南 京	50.6	53.5	43	44.9
東 京	西 京	28.8	26.5	27	36.2
東 京	形 京	64.9	61.2	56.6	71
東 山	井 山	29.4	※	24.5	28
柳 井	浜 井	54.6	※	※	※
横 濱	天 濱	23.8	※	※	※
普 天	間 天	10.8	11.4	15.8	20
那 覇	覇 那	61	60	※	64.5
		9.4	※	※	10.8
		36.1	36.6	37.2	48.5

ユース・コンファレンスについて

一、プログラム(別表の通り)

○第一日目、八月八日(木)、午後一時より「全日本卓球選手権大会」を行います。

全国の支部を十六ブロックに分け、各ブロックから、男女シングルス各一名、男女ダブルス、混合ダブルス各一組、計八名(一人一種目です) 全国十六ブロックより、百二十八名の選手が出場致します。

正式な国際ルールに従い、予選から、二十一本、三セットで行います。

六月頃迄に各ブロックまたは各支部で卓球大会を行い選手を決めて下さい。

棄権する選手が一人もないようにお願い致します。

夜の歓迎会は卓球と別会場にて行います。

教会幹部のお話、インターナショナル卓球大会へ出場する選手の紹介、そして参加者を八〜十六組に分け、組対抗ゲーム、フォークダンス等、各会員の親睦を計る楽しい会を計画しています。

この日は民泊と致します。

○第二日目、八月九日(金)、午前十時迄に、日本青年館大ホールに集合してもらいます。

スピーチは各ブロックから代表一名、計十六名でコンテストを行います。

題は大会テーマであります「結婚」に就いて一人五分間と致します。

代表者は原則として、MIAのスピーチのクラス生徒と致します。

音楽は、大グループ(二十名以上)、小グループ(二〜六人程度)に分け、大グループ八ブロック、小グループ八ブロックで規定曲、自由曲各一曲で、コンテストを行います。(大グループには出場するブロックは、小グループには出場出来ません。)(各地方部に連絡致します。)

演劇は、京浜地区を中心として、一時間もの一つ、西中央地方部を中心として一時間もの一つ、計二つ発表致します。

幕間に北海道の小さい出し物を入れます。この日は地方の方は全員、京浜地区の方も出来るだけ沢山の人が、日本青年館ホテルに泊るようお願い致します。

○第三日目、八月十日(土)、東京体育館でバレーボール大会を行います。朝八時迄に体育館前広場に集合し、開会行事を終え、九時からすぐ試合開始が出来るように致します。

男女混合チームは作らず、男子チーム女子チームに分けます。

各ブロックでチームを編成(一チーム監督も含めて十名)して至急申し込み願います。(六人制で行います)

男子チームは十二、女子チームは六、

になり次第締切ります。(先着順です)

また近くに野球場がありますので、四月末日迄チームを編成してお知らせ下さい。四チーム以上参加すれば、ソフトボール大会も行うように計画致します。

引続き、インターナショナル卓球大会を行います。

韓国、香港、フィリピン、その他の国からも参加予定しておりますが、これはまだ未定であります。

もしどの国からも参加しない場合は、日本の伝道部の東西で対抗試合を行います。

マセゲームは、北海道、東北、関東、関西、九州、沖縄等の地方色を帯びた踊り、ゲーム等盛沢山の計画があります。

夜は最後のダンスパーティーであります。ソシユアルダンス、フォークダンスのデモンストレーション、また全員で踊って最後を飾りたいと思います。

この日はまた民泊と致します。○第四日目、八月十一日(日)は午前九時から神権会、姉妹たちの集いを行い、証会をもって、ユース・コンファレンスのすべての行事を終わります。

二、費用

大会の費用、即ち会場費、運営費、その他全ての費用をこの大会へ出席する者が負担しなければなりません。

またいつも大会地を東京で行いますので、地方から出てくる人の費用が大変で

従って参加者も東京中心で、地方から来る人は僅かという状態です。

そこで、今大会に於きましては、テーマが「結婚」と言うことも含めまして、地方からの人も沢山出席していただくためには、交通費の殆く程度を負担してあげよう、その二つの理由で、大会参加費一人一五〇〇円と決めました。

特に京浜地区の人たちに御協力をお願いする次第であります。

また第二日目に日本青年館に宿泊される方は、一泊二食付で一五〇〇円追加されます。

三、目的

大会テーマが「結婚」と言うことで特に若い人たちのための集いです。

年令は十四才から二十九才まで、しかし監督、附添、見物には年令の制限はありません。

特に費用の面では、御協力をお願いします。

四、組織

田中健治(第二副伝道部長) ↓
佐藤襄二(伝道部YM・MIA管理会長)

島田邦男(伝道部YM MIA第一副会長) ↓各準備委員(別表参照)

各ブロックの総責任者は次の方々です。

- ① 高杉保夫(北海道地方部評議員)
- ② 清水菊江(東中央地方部YW M



- I A 会長)
- ④ 井上竜一 (東中央地方部 Y M M I A 会長)
- ⑩ 田村聡子 (西中央地方部 Y W M I A 会長)
- ⑮ 石川修 (九州地方部長)
- ⑯ 長領顕正 (沖繩地方部長)

ユース・コンファレンスプログラム

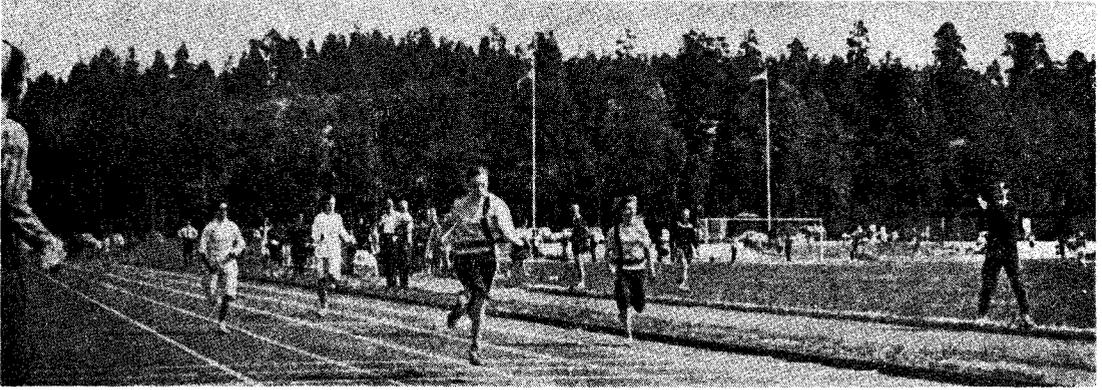
		種 目	時 間	会 場	準 備 委 員
第1日目	8月8日(木)	卓 球 (国内)	PM 1:00~5:00	東京体育館 教会堂	島田・神田
		歓 迎 会	PM 6:30~8:30		佐藤
第2日目	8月9日(金)	ス ピ ー チ	AM10:00~11:30	日本青年館	島田
		音 楽	PM 1:00~3:00		稲垣
		ド ラ マ	PM 6:30~9:00		塚田
第3日目	8月10日(土)	ス ポ ー ツ	AM 9:00~11:00	東京体育館	島田・神田
		卓 球 (国際)	AM11:30~1:00		島田・神田
		マ ス ゲ ー ム	PM 2:00~4:00		塚田
		ダ ン ス	PM 6:30~8:30		佐藤
第4日目	8月11日(日)	神 権 会	AM 9:00~10:00	豊島公会堂	佐藤
		証 会	AM10:30~1:00		佐藤

ブ ロ ッ ク 分 け

- | | | | |
|------------------|-------|-----------|------------------|
| ① 北海道 | ⑤ 西 | ⑨ 横 浜 | ⑬ 三の宮, 西の宮 |
| ② 仙台, 山形, 新潟, 福島 | ⑥ 南 | ⑩ 名古屋, 金沢 | ⑭ 広島, 岡山, 柳井, 高松 |
| ③ 群馬, 甲府, 松本 | ⑦ 北 | ⑪ 阿部野 | ⑮ 九 州 |
| ④ 東 | ⑧ 中 央 | ⑫ 岡町, 京都 | ⑯ 沖 繩 |

ユース・コンファレンス

1966年6月スカンジナビア地方で開かれたMIAユース・コンファレンス



ストックホルムで開かれたこの会に次の4つの伝道部が参加した。
即ちスウェーデン、デンマーク、ノルウェイ、フィンランドの各伝道部である。



お国自慢のダンス・フェステバル

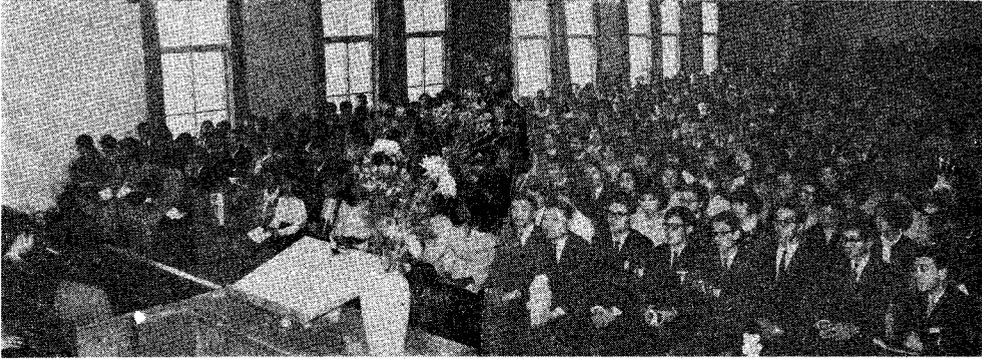


スポーツ
トラック競技

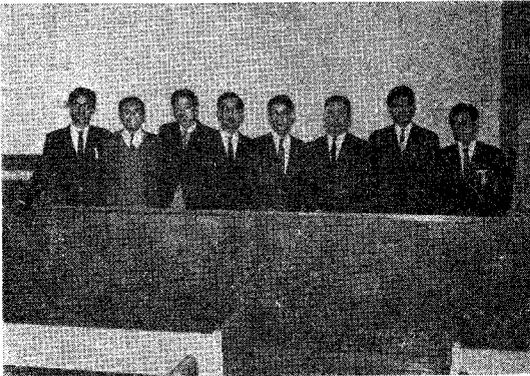


14才～26才の若人が集った

東中央地方部大会



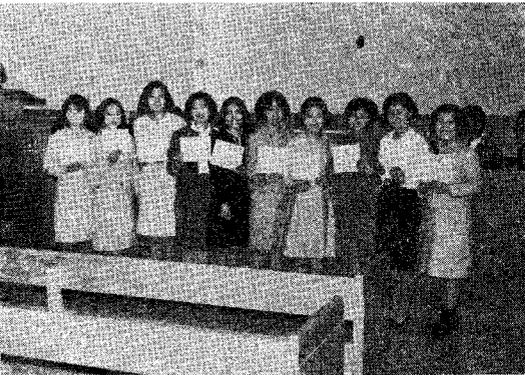
会場（西支部を埋めた聖徒たち）（2月11日）



メルケゼデク神権を受けた兄弟たち



ファイトと明るさの神権指導者会



第一回ガールズプログラムの受賞者たち



支部所在地

北海道地方部

- 旭川 旭川市8条5丁目
電話 (0166-2-1545)
M I A集会所 旭川公会堂
室蘭 室蘭市幸町12-9
電話 (0143-2-7054)
小樽 小樽市富岡町1-35
電話 (0134-2-8224)
札幌 札幌市南20条西16丁目
電話 (0122-56-7175)

東中央地方部

- 福島 福島市旭町4-15 旭荘アパート7
電話 (02452-3-3602)
群馬 高崎市並榎町275
電話 (0273-22-7121)
甲府 甲府市中央3丁目12-2
電話 (0552-3-2409)
松本 松本市開智1-1-6
電話 (02634-3-8093)
新潟 新潟市明石通3-40-1
仙台 仙台市光禅寺通り28
電話 (0222-25-0897)
東京中央 東京都港区北青山3-6-4
電話 (03-400-3307)
東京北 東京都中野区江原町1-8-14
電話 (03-953-8244)
東京東 東京都江戸川区西小岩5-8-6
電話 (03-658-7310)
東京南 東京都大田区南千束町2-25-11
電話 (03-729-6311)
東京西 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-7-7
電話 (0422-22-6764)
山形 山形市七日町4-12-23
電話 (02362-3-3380)
横浜 横浜市港北区篠原町29
電話 (045-401-8772)

西中央地方部

- 阿倍野 大阪市阿倍野区阪南町中1-11-8
電話 (06-623-4315)
広島 広島市高須2-7-29
電話 (0822-71-5309)
金沢 金沢市兼六元町3-8
電話 (0762-21-2131)
京都 京都市左京区下鴨松原町44
電話 (075-70-4067)
名古屋 名古屋市昭和区北山町3-41
電話 (052-731-4210)
名古屋北 名古屋市昭和区北山町3-41
電話 (052-731-4210)
西ノ宮 兵庫県西ノ宮市仁川町4-54
電話 (0798-51-0141)
岡町 大阪府豊中市岡町北2-18
電話 (068-52-1236)
岡山 岡山市学南町1-13-11
電話 (0862-52-3560)
三ノ宮 神戸市灘区篠原本町4-35
電話 (078-86-2602)
高松 香川県高松市末広町1-8
電話 (0878-51-4708)
柳井 山口県柳井市今市391
電話 (106 申込柳井7)

九州地方部

- 福岡 福岡市浄水町46
電話 (092-52-8653)
北九州 北九州市小倉区東和町 新井ビル403
電話 (093-55-4659)
熊本 熊本市新屋敷町2-18-49
電話 (093-66-7656)
長崎 長崎市片淵町1-1
電話 (0958-23-8949)

沖縄地方部

- 普天間 沖縄宜野湾市野嵩区328
那覇 沖縄那覇市崇元寺町1-128-20
電話 (3-1620)
建築部事務所 東京都港区北青山3-6-4
電話 (400-4080)

(誤りのある支部の支部長はご一報ください)

聖徒の道

一九六八年二月二十日発行

振替口座 東京一六二二六番

発行人兼編集人 アドニー・Y・小松

発行所

東京都港区南麻布五丁目八番十
末日聖徒イエス・キリスト教会

電話 四七三一六一三

印刷所 株式会社三五堂

定価七十円

予約八月まで(申込は支部長まで)

昭和四十二年十二月十八日第三種郵便物認可
一九六八年二月二十日発行(毎月一回二十日発行)第十二卷第二号